

名古屋芸術大学

後援会報

第55号 2013年9月30日発行

CONTENTS

1	目次
2	ごあいさつ
3	後援会定期総会報告 前年度事業報告・今年度事業計画
4	新役員・委員一覧
5	2012年度 後援会決算報告
7	2013年度 後援会予算書
9	名古屋芸術大学近況報告
19	学生部報告 2013年度 学生数
20	2013年度 年間行事予定表
23	2013年度 入学式
24	就職セミナーのご紹介
27	各学部進路状況
29	先輩の活躍
31	ブライトン大学ディグリーショー参加報告
32	国際交流紹介 大学へのお問合せ先一覧
33	クラブ・同好会紹介
35	親の想い
36	子の想い せせらぎ合唱団・壁の華 会員募集
37	トピックス ピックアップ
40	音楽学部主催による演奏会のご案内
41	アート&デザインセンター展覧会スケジュール
42	後援会学費貸付事業のご紹介
43	名古屋芸術大学後援会会則
44	学校法人名古屋自由学院決算報告
45	大学運営組織図
46	木祖セミナーハウスのご紹介 編集後記

ごあいさつ



後援会長
萩 達也

保護者の皆様には平素より後援会活動にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。名古屋芸術大学後援会の活動目的ですが、後援会会則には「本会は名古屋芸術大学の教育方針に基づき、大学諸活動の後援を目的とする。」と明記されております。

この目的を忘れないよう、諸活動の後援を推進してまいりたいと存じます。具体的には公開講座補助、学生課外活動、福利厚生、就職活動、国際交流活動などの支援であります。

その詳細内容は、後援会報の中に分かりやすく掲載しておりますのでご参照ください。

後援会活動の中で、特に重点を置いているのが毎年5月に大学の全面協力を得て開催している教育懇談会です。各学部に分かれた会場で活発な質問、意見交換がされます。教育懇談会は、ご子女の学業状況や将来の進路、就職活動状況などについて、教職員の方々と面談できる有意義な機会です。是非ご活用頂き、日頃の心配や疑問などをご相談されるとともに、「学生」、「保護者」、「教職員」の相互理解を深めていただければと存じます。

保護者の皆様方におかれましては後援会の発展のため、諸活動に関してご意見を賜りますとともに一層のご協力の程お願い申し上げます。

学生の皆さん、学内には様々な教育環境が整備されております。思う存分、感性と創造力を育ててください。また学生時代は、経験を積む、体験をするのに適した時期です。人間的な経験値を高める最高の時期です。様々な人と交流し、失敗を恐れず挑戦してください。何か興味深いことを発掘し、「やる気スイッチ」が入ったらしめたもの。あとは何も考えずに突き進んでください。小さな切っ掛けが将来につながるかもしれません。

いつやるか？聞かないでください。今でしょ！



学長
竹本 義明

後援会は毎年総会と数回の役員会が開催され、役員である保護者の方から貴重なご意見を伺う機会があります。今年度の総会を挟んだ役員会では、大学の授業の実態について厳しいご意見を頂きました。

大学を取巻く環境が変化する中で、教育・研究の質を高めるための大学教員の意識や力量が不足していることを痛感するご指摘であり、まさに教員の自己管理能力が問われている思いがいたしました。

大学は教育・研究の維持向上のために不断的努力を行うことは教員の学生と社会、そして保護者に対する責務であると考えています。大学の社会的存在価値を

高め存続・成長していくためには、このようなご意見に真摯に耳を傾け、改善への努力を怠ることがないようしなければなりません。

今年度、本学は大学改革を実施するために組織を立ち上げ「学部の新たな融合と再編による教育の質と基盤強化」「学部連携による大学運営の効率化と経営基盤の安定」に取り組んでいます。

多くの教員が教育・研究に対する情熱を持ち、授業への工夫を行い、改善への努力を進めていることは疑いのないものですが、教員が学生とのコミュニケーションやニーズの把握不足により、現在の状況を招いていると考えています。

卒業生の社会からの評価は高く、芸術系大学として地域ナンバーワンという評価を頂いています。今回の大学改革の最重要課題は、カリキュラムを再編しスリム化や特色化に取組み、3つのポリシーの再定義を行ない、社会的評価をさらに高めたいと考えています。

あらためて大学の社会的責任として、社会の持続的発展に資する教育・研究を充実させ、後援会の皆様からの期待に応えてゆきたいと考えています。

今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

2013年度 名古屋芸術大学後援会 定期総会

2013年5月19日(日) 13:00より、東キャンパス1号館701において、「2013年度名古屋芸術大学後援会定期総会」が開催されました。

2012年度 名古屋芸術大学後援会事業報告

月 日	事業内容	開催場所
5月20日(日)	2012年度後援会定期総会事前打合せ 2012年度後援会定期総会	西キャンパス B棟
5月下旬	法人より委託徴収金振替 前期分	
6月6日(水) ～12日(火)	イギリスブライトン大学ディグリーショウ 後援会会長他大学関係者参加	イギリス
6月上旬	後援会より補助金一括交付	
6月23日(土)	第1回役員会(所属委員会決定)	
7月21日(土)	第2回役員・委員会 (後援会報編集方針/研修旅行企画)	東キャンパス 1号館
9月下旬	名古屋芸術大学後援会報第53号発行	
10月20日(土) ～21日(日)	後援会研修旅行 1泊2日	
10月27日(土)	第3回役員会委員会(顧問含む) 芸大祭参加	西キャンパス
11月中旬	法人より委託徴収金振替 後期分	
1月19日(土)	第4回役員・委員会(後援会報編集方針)	
2月16日(土)	第5回役員・委員会(次年度役員案作成)	東キャンパス
2月22日(金)	ブライトン大学賞表彰式(会長)	名古屋東急 ホテル
3月22日(金)	卒業式参列(会長・副会長《総務委員長》)	名古屋市公会堂
3月22日(金)	卒業記念パーティー出席(会長・役員)	名古屋マリオット アソシアホテル
3月30日(土)	後援会報第54号発行	
4月3日(水)	入学式参列 (2012年度会長・副会長《総務委員長》)	西キャンパス
4月20日(土)	2012年度会計監査(2012年度監査2名)	東キャンパス
4月20日(土)	第6回役員会(定期総会準備他)	
備考	以上のほかにも、公開講座補助、就職活動補助、国際交流補助、施設・設備補助、授業料貸付他を行いました。	

2013年度 名古屋芸術大学後援会事業計画

月 日	事業内容	開催場所
5月19日(日)	2013年度後援会定期総会事前打合せ 2013年度後援会定期総会	東キャンパス 1号館701
5月下旬	法人より委託徴収金振替 前期分	
5月29日(水) ～6月1日(土)	イギリスブライトン大学ディグリーショウ 後援会会長他大学関係者参加	イギリス
6月上旬	後援会より補助金一括交付	
6月22日(土)	第1回役員会(所属委員会決定)	
7月20日(土)	第2回役員・委員会 (後援会報編集方針/研修旅行企画)	東キャンパス 1号館
9月30日(月)	後援会報第55号発行	
10月中下旬	後援会研修旅行 1泊2日	
10月26日(土)	第3回役員・委員会(顧問含む) 芸大祭参加	西キャンパス
11月中旬	法人より委託徴収金振替 後期分	
1月18日(土)	第4回役員・委員会(後援会報編集方針)	
2月15日(土)	第5回役員・委員会(次年度役員案作成)	東キャンパス
2月21日(金)	ブライトン大学賞表彰式(会長)	名古屋東急 ホテル(予定)
3月20日(木)	卒業式参列(会長・副会長《総務委員長》)	日本特殊陶業 市民会館
3月20日(木)	卒業記念パーティー出席 (会長はじめ役員)	名古屋マリオット アソシアホテル (予定)
3月31日(月)	後援会報第56号発行	
4月上旬	入学式参列 (2013年度会長・副会長《総務委員長》)	西キャンパス
4月中旬	2013年度会計監査(2013年度監査2名)	東キャンパス
4月下旬	第6回役員会(定期総会準備他)	
備考	以上のほかにも、公開講座補助事業、就職活動補助事業、国際交流補助事業、施設・設備補助事業、授業料貸付事業等を行う予定です。	

■2013年度 名古屋芸術大学後援会 役員・委員一覧

通番	役職名	氏名	学部
1	会長	萩 達也	音楽学部
2	副会長 (総務委員長)	飯田 康子	美術学部
3	副会長 (事業委員長)	真野久美子	美術学部
4	副会長 (広報委員長)	富田 知彦	音楽学部
5	副会長(会計)	平井 友明	人間発達学部
6	会計監査	木村 充代	人間発達学部
7	会計監査	月森 為之	音楽学部
8	書記	望月 弘子	音楽学部
9	書記	岩尾 弥生	人間発達学部
10	会計	角前 成子	人間発達学部
11	監事	佐藤 俊明	デザイン学部 卒
12	総務副委員長	服部 政光	美術学部
13	総務副委員長	岩松さわ子	音楽学部

通番	役職名	氏名	学部
14	総務委員	安藤 邦恵	音楽学部
15	総務委員	角谷 一彦	音楽学部
16	事業副委員長	余吾めぐみ	デザイン学部
17	事業副委員長	山田 貢	音楽学部
18	事業委員	内海那保子	デザイン学部
19	事業委員	長尾 啓史	音楽学部
20	事業委員	日比野弘嗣	人間発達学部
21	広報副委員長	今井 良美	デザイン学部
22	広報副委員長	渡部 朝子	デザイン学部
23	広報委員長	中村 直美	人間発達学部
24	広報委員長	有川美代子	音楽学部
25	広報委員長	早坂 道子	音楽学部



全議題は賛成多数で承認されました。最後に退任された役員に対して、大学から感謝状が贈呈されました。長年にわたって本当にありがとうございました。



■2012年度 名古屋芸術大学後援会 決算書

1. 一般会計

2012. 4. 1～2013. 3. 31 単位：円

収入の部

	予 算	決 算	差 異	備 考
前年度繰越金	3,602,913	3,602,913	0	
会 費 収 入	27,602,000	26,648,000	954,000	
特別会計より繰入	1,600,000	1,600,000	0	
受 取 利 息	2,000	2,079	-79	
手数料他収入	20,000	22,300	-2,300	事業協賛金
合 計	32,826,913	31,875,292	951,621	

支出の部

	予 算	決 算	差 異	備 考
通 信 費	350,000	315,245	34,755	私学助成署名運動他
旅 費・交通費	200,000	258,000	-58,000	
会 議 費	500,000	317,574	182,426	
事務費・用品費	150,000	115,473	34,527	振込手数料を含む
弔 慰 費	100,000	30,000	70,000	
渉 外 費	500,000	399,995	100,005	チケット代、 役員手当て
事務職員人件費	750,000	723,240	26,760	
(総務関係合計)	2,550,000	2,159,527	390,473	
芸大祭補助	3,800,000	3,800,000	0	
クラブ補助	7,800,000	7,800,000	0	
就職活動補助	5,500,000	4,761,576	738,424	
謝 恩 会 補 助	1,000,000	1,000,000	0	
学生自治会補助	600,000	600,000	0	
国際交流補助	1,000,000	937,179	62,821	
公開講座補助	4,000,000	3,895,282	104,718	
施設・設備補助	1,000,000	692,070	307,930	
福祉事業補助	0	0	0	
学費貸付金資金振替	0	0	0	
特別積立金振替	500,000	500,000	0	
教員・役員研修費補助	800,000	723,566	76,434	研修費補助金
(事業関係合計)	26,000,000	24,709,673	1,290,327	
広 報 活 動	1,200,000	989,520	210,480	後援会報53号/54号
広報誌郵送料	500,000	385,422	114,578	
広報誌手数料	50,000	0	50,000	
(広報関係合計)	1,750,000	1,374,942	375,058	
予 備 費	2,526,913	32,340	2,494,573	奨学金返還請求分 弁護士
次年度繰越	0	3,598,810	-3,598,810	
総 合 計	32,826,913	31,875,292	951,621	

2. 特別会計決算書

(1) 特別積立金会計

収入の部

単位：円

	科 目	予 算	決 算	差 異	備 考
1	前年度繰越金	500,000	500,000	0	
2	一般会計より資金繰入	500,000	500,000	0	
3	雑 収 入	0	121	-121	
4	合 計	1,000,000	1,000,121	-121	

支出の部

単位：円

	科 目	予 算	決 算	差 異	備 考
5	特別積立金事業計画	0	0	0	
6	事業計画積立金	0	0	0	
7	次年度繰越金	1,000,000	1,000,121	-121	
8	合 計	1,000,000	1,000,121	-121	

(2) 学費貸付金会計

収入の部

単位：円

	科 目	予 算	決 算	差 異	備 考
9	前年度繰越金	11,867,041	11,867,041	0	
10	一般会計より資金繰入	0	0	0	
11	特別会計より資金繰入	0	0	0	
12	学生貸付金返済金	3,000,000	5,213,170	-2,213,170	
13	雑 収 入	3,000	1,940	1,060	
14	合 計	14,870,041	17,082,151	-2,212,110	

支出の部

単位：円

	科 目	予 算	決 算	差 異	備 考
15	学 生 貸 付 金	10,000,000	3,455,000	6,545,000	
16	一般会計へ資金繰入	1,600,000	1,600,000	0	
17	予 備 費	3,270,041	105,840	3,164,201	過払い返還金の戻し
18	合 計	14,870,041	17,082,151	-2,212,110	

(3) 学生生活基金会計

収入の部

単位：円

	科 目	予 算	決 算	差 異	備 考
19	前年度繰越金	2,132,464	2,132,464	0	
20	雑 収 入	1,000	683	317	
21	合 計	2,133,464	2,133,147	317	

支出の部

単位：円

	科 目	予 算	決 算	差 異	備 考
22	講演会、パンフレット作成	350,000	0	350,000	
23	次年度繰越金	1,783,464	2,133,147	-349,683	
24	合 計	2,133,464	2,133,147	317	

■2013年度 名古屋芸術大学後援会 予算書

1. 一般会計

2013. 4. 1～2014. 3. 31 単位：円

収入の部

	2013年度 予算	2012年度 予算	差異	備考
前年度繰越金	3,598,810	3,602,913	-4,103	
会費収入	25,592,000	27,602,000	-2,010,000	
特別会計より繰入	2,000,000	1,600,000	400,000	学費貸付金口
受取利息	2,000	2,000	0	普通預金
手数料他収入	20,000	20,000	0	事業協賛金
合計	31,212,810	32,826,913	-1,614,103	

支出の部

	2013年度 予算	2012年度 予算	差異	備考
通信費	350,000	350,000	0	
旅費・交通費	250,000	200,000	50,000	
会議費	500,000	500,000	0	
事務費・用品費	150,000	150,000	0	振込手数料を含む
弔慰費	100,000	100,000	0	
渉外費	500,000	500,000	0	チケット代、 役員手当て
事務職員人件費	750,000	750,000	0	担当派遣職員
(総務関係合計)	2,600,000	2,550,000	50,000	
芸大祭補助	3,800,000	3,800,000	0	
クラブ補助	7,800,000	7,800,000	0	
就職活動補助	5,500,000	5,500,000	0	
謝恩会補助	1,000,000	1,000,000	0	
学生自治会補助	600,000	600,000	0	
国際交流補助	1,000,000	1,000,000	0	
公開講座補助	4,000,000	4,000,000	0	
施設・設備補助	1,000,000	1,000,000	0	
福祉事業補助	0	0	0	
学費貸付金資金振替	0	0	0	
特別積立金振替	500,000	500,000	0	特別積立金口
教員・役員研修費補助	800,000	800,000	0	研修費補助金
(事業関係合計)	26,000,000	26,000,000	0	
広報活動	1,200,000	1,200,000	0	広報誌・封筒(大・小)
広報誌郵送料	500,000	500,000	0	
広報誌手数料	50,000	50,000	0	アルバイト代
(広報関係合計)	1,750,000	1,750,000	0	
予備費	862,810	2,526,913	-1,664,103	
総合計	31,212,810	32,826,913	-1,614,103	

2. 特別会計予算書

(1) 特別積立金会計

収入の部

単位：円

	科 目	2013年度 予算	2012年度 予算	差 異	備 考
1	前年度繰越金	1,000,121	500,000	500,121	
2	一般会計より資金繰入	500,000	500,000	0	
3	雑 収 入	150	0	150	
4	合 計	1,500,271	1,000,000	500,271	

支出の部

単位：円

	科 目	2013年度 予算	2012年度 予算	差 異	備 考
5	特別積立金事業計画	0	0	0	
6	事業計画積立金	0	0	0	
7	次年度繰越金	1,500,271	1,000,000	500,271	
8	合 計	1,500,271	1,000,000	500,271	

(2) 学費貸付金会計

収入の部

単位：円

	科 目	2013年度 予算	2012年度 予算	差 異	備 考
9	前年度繰越金	11,921,311	11,867,041	54,270	
10	一般会計より資金繰入	0	0	0	
11	特別会計より資金繰入	0	0	0	
12	学生貸付金返済金	3,500,000	3,000,000	500,000	
13	雑 収 入	2,000	3,000	-1,000	
14	合 計	15,423,311	14,870,041	553,270	

支出の部

単位：円

	科 目	2013年度 予算	2012年度 予算	差 異	備 考
15	学 生 貸 付 金	10,000,000	10,000,000	0	
16	一般会計へ資金繰入	2,000,000	1,600,000	400,000	
17	予 備 費	3,423,311	3,270,041	153,270	
18	合 計	15,423,311	14,870,041	553,270	

(3) 学生生活基金会計

収入の部

単位：円

	科 目	2013年度 予算	2012年度 予算	差 異	備 考
19	前年度繰越金	2,133,147	2,132,806	341	
20	雑 収 入	1,000	500	500	
21	合 計	2,134,147	2,133,306	841	

支出の部

単位：円

	科 目	2013年度 予算	2012年度 予算	差 異	備 考
22	講演会、パンフレット作成	350,000	350,000	0	
23	次年度繰越金	1,784,147	1,783,306	841	
24	合 計	2,134,147	2,133,306	841	

名古屋芸術大学近況報告

音楽学部

《演奏学科》

声楽コース

声楽コースでは、今年度もオペラ公演を中心に学生達に舞台経験を積ませるための演奏会を設定しています。今年度のオペラ公演は、2014年3月8日(土)に、モーツァルト作曲の「魔笛」を三井住友海上しらかわホールに於いて行ないます。(18時30分開演)既に4年生を中心に配役も決まり、澤脇教授の指導のもと、この夏休みに合宿を組んだりして、練習に励んでいます。

また、もう既に12回を数えますところの「歌曲のタベ」は2014年2月8日(土)に、名古屋市千種区にあります「メニコン」のHITOMIホールに於いて行なわれます(18時開演)。このコンサートのためのオーディションは、12月12日(木)に本学ホールに於いて行います。

その他、学生達は、定期演奏会、卒業演奏会への出演、又コンクールへの入賞等に向けて練習に励んでいます。

声楽コース 教授 土佐 誠

弦管打コース

弦管打コースの今年度の取り組みにおいて最も大きな出来事は、来年度における非常勤講師の増員に伴う人事でした。大学のブランド力の増強及び生徒にとって魅力ある講師陣を目指し、以下の楽器の増員をしました。(フルート・オーボエ・クラリネット・サクソフォーン・ホルン・トランペット・トロンボーン・バストロンボーン・パーカッション・ヴァイオリン・ヴィオラ)これにより、それぞれの楽器の講師が2ないし3人体制となり、来年度からはさらなる教育の充実が図られると期待しております。

7月16日～26日に名古屋芸術大学フルートオーケストラの演奏旅行が行われました。この演奏会は本学客員教授のヤン・ギュンス氏のお力添えで実現した演奏会で、今回はスペインの2会場での演奏となりました。1回目はヴァレンシアのPALAU DE LA MUSICAにおいて、第127回国際吹奏楽コンテストのゲストとして、2回目はヴェンドレルのAUDITORI PAU CASALSにおいて、第33回パブロ・カザルス国際音楽祭の演奏会に出演しました。ヴァレンシアの演奏会は客席数1000人を超えるホールがほぼ満席の状態、本番後はスタンディングオベーションになる等、とても盛り上がった本番となりました。ヴェンドレルの演奏会は、カザルスが住んでいた場所に建てられた由緒あるホールで、客席400ほどの小規模な会場ではありましたが、本番当日は8割位の観客が訪れていました。

その他、今年も8月28日にNUAストリングスの演奏会(電気文化会館)、9月24日ウィンドオーケストラ第32回定期演奏会(芸文コンサートホール)、10月3日あい

ちトリエンナーレ2013祝祭ウィーク ショービジネスに乾杯!(吹奏楽とミュージカルのコラボ 芸文大ホール)10月24日オーケストラ第31回定期演奏会(芸文コンサートホール)、12月17日(名芸3号館ホール)、19日(熱田文化小劇場)第32回室内楽のタベを行います。

弦管打コース 准教授 依田嘉明

ピアノコース

この4月から、日本を代表するピアニストとして活躍されている近藤嘉宏氏を、客員教授に迎えました。先生には、演奏(ブラームスのピアノコンチェルトを予定)と、ピアノコース学生全員のレッスンを担当していただきます。また、従来からご指導いただいている、ハンガリー国立リスト音楽院教授、ファルヴァイ・シャンドール先生のレッスンを、ピアノコース1年生全員が受講しました。

昨年続き、今年も開催されました「パリ・エコール・ノルマル音楽院・交換交流」。音楽院副校長ジャン・ルイ・マンサール先生による「フランス ピアノ作品の解釈と公開レッスン」が行われ、ピアノコース4年 水越晴菜さんがフォーレ：ノクターン第1番 変ホ長調 作品321、ピアノコース4年 碓 大知君がドビュッシー：前奏曲集第1集より 沈める寺を演奏し、先生の公開レッスンを受講しました。

毎年5月に行っています「ピアノコンチェルト・オーディション」。今年度の課題曲は、モーツァルト：ピアノ協奏曲 第20番 K.466、グリーグ：ピアノ協奏曲 イ短調 作品16。全部で9名の応募があり、モーツァルトは、第1楽章 佐藤 優(2年)、第2・3楽章 碓 大知(4年)。グリーグは、第1楽章 山田 愛(卒業生)、第2・3楽章 佐藤笙子(2年)の皆さんが選ばれ、「電子オルガンとのコラボレーション・スペシャルコンサート」6月2日 名古屋音楽学校ホール、「コンチェルトのタベ」7月17日しらかわホールで開かれた演奏会に出演し、好演しました。

例年になく暑い日が続くなか、第15回「ピアノ・サマーコンサート」が名古屋芸術大学3号館ホールで開催され、8月5日～6日に行いましたピアノ実技試験で選出の学生(1年・2年・3年・特待生)が演奏しました。

この後、「YAMAHA サマーフェスタ」8月24日～26日、「パリ・エコール・ノルマル音楽院 研修旅行」9月16日～などが、予定されています。

ピアノコース 教授 田中航造

電子オルガンコース

電子オルガンコースは、名古屋音楽学校の中にもレッスンの拠点を作って頂けて、新たに恒常的な学生募集の可能性が広がり嬉しく思っています。そのきっかけになっ

た昨年末のピアノ協奏曲のコンサート…ピアノ・コースとのコラボで、オケパートを電子オルガンが担当…を今年は6月末に同じく名古屋音楽学校で、弦管打コースも交えてのコラボレーション・コンサートを行いました。共演してくれたピアノ・コースの学生から「電子オルガンとはやりやすかった。」などとポジティブな反応を頂けたのも良かったと思います。

それに先がけたゴールデンウィーク、名古屋駅前『駅とびあ祭』のカーニバルにおける『エレクトーン・スーパー・キッズ・オーケストラ』を今年も名芸の電子オルガンコースがプロデュース。愛知・岐阜のオーディションを通った子供たちを練り上げ、本番ではトランペットのエリック・ミヤシロ氏と共演を果たし好評を得ました。

本学の東キャンパスで催される毎年恒例のワークショップは今年も盛況にて、大成功のうちに終わりました。今年のスペシャル・ライブのゲストは業界No.1の呼び声が高い窪田宏氏。学生も訪れた方々も大満足のパフォーマンスを披露して下さいました。

尾張一宮の七夕祭においても、イベント主催者の理解を得られて、特設メインステージで「名古屋芸術大学・演奏学科の学生」として紹介された有志学生10組が演奏しまして多くの一般の方々に喜んでもらえました。

電子オルガンコースの今年度前半は以上のように、まずは順調と申せます。この勢いで後半の熱田でのコース定演「アースエコー」でも名芸・電子オルガンコースらしいプログラムを用意して良質の音楽を発信出来ればと考えています。

電子オルガンコース 准教授 鷹野雅史

《音楽文化創造学科》

ミュージカルコース

ミュージカルコースは、3月公演で「Fairy Tales ～あなたの知らない危ない童話集～」を上演しました。会場は、芸術創造センターです。この作品は大邱国際ミュージカル・フェスティバルで銅賞を頂いた作品で、名古屋では7年ぶりの上演となりました。新しいキャストによる再演では新しい発見もあり、充実した公演となりました。

また、今回で5回目となる高山市民参加のミュージカル「飛騨・童話会議Ⅱ」では、シェイクスピアの「夏の夜の夢」に題材を得た新作「ロビン・グッドフェローの冒険」を上演致しました。高山市民の進歩はめざましく、ついには参加者によるミュージカル・カンパニーまで結成されました。これからも、高山発の良質なミュージカルが発信されて行くものと思われれます。

この数年間続けている、ミュージカル・鑑賞の機会が少ない地域でミュージカル・ハイライトを上演する企画も西宮市、常滑市、刈谷市などで実施され、多くの皆様にミュージカルをお楽しみ頂きました。

この10月には愛知県芸術劇場大ホールで、「あいちトリエンナーレ・祝祭ウィーク ショービジネスに乾杯!」の上演が控えています。10月3日の18時30分から20時30分までの2時間、芸術劇場をブロードウェイにしようという企画で、現在、ブロードウェイで上演中の作

品を中心にプログラムが組まれております。この公演は弦管打コース、声楽コース、ミュージカルコースがチームを組んで行うもので、演奏は名古屋芸術大学ウィンドオーケストラが担当して下さいます。お時間のご都合が付きますれば、是非、足をお運び下さい。

ミュージカルコース 教授 森泉博行

ジャズ・ポップスコース

ジャズ・ポップスコースは、定期的にロビーコンサートという学内発表を実施し、近隣住民の来場者から一定の支持を得られています。また、大学の魅力づくりの一環として、今年度のオープンキャンパスでは、西キャンパスの演奏にも参加しています。

行政との連携事業では、ナゴヤまちかどアンサンブルをはじめ、エキトピアまつりに参加しJRタワーズガーデンで演奏し、学生の自主的音楽活動促進による文化の薫りあるにぎやかなまちづくりに貢献しています。

7月4日には、ジャズヴォーカルにおける第一人者である、特別客員教授ケイコ・リー氏による公開講座がありました。

ジャズ・ポップスコース 教授 竹本義明

アートマネジメントコース

「無人島に飾られた『モナリザ』の絵」という表現があります。どんなに優れた芸術でも、それを観賞する人がいなければ価値が生まれないという意味の警句です。芸術に携わる者として、人間が作り出した至高の芸術作品を少しでも多くの人々の手に届けて喜んで貰いたいと切に願っています。そのためには芸術家自身がそれなりの意識を持つことはもちろん、この社会において芸術を効率的に成り立たせるためのシステムを作らなくてはなりません。それが「アートマネジメント」という学問だと言えるでしょう。

本学の「音楽ビジネス・ステージマネジメントコース」では、この「アートマネジメント」の理論に基づき、音楽をビジネスとして成り立たせるための様々な知識と技術を学んでいます。

第1学年では、大学の行事のお世話をしながらマネジメントの基礎を学びます。第2学年では、対外的な行事に参加して外の空気を吸って貰います。第3学年では、最も大きな大学の行事「ルネッサンス」において、企画と運営を担当し共同作業としてのマネジメントを学びます。さらに、第4学年では、自らが企画立案した演奏会を自らの手によって自主運営し、実際に収益を上げるという目標を達成して貰います。

こうやって学年を経るたびに大きく成長し、卒業するときには「終わり」ではなく「出発だ」とはっきり自覚してもらえるようなコース運営を、私たち教員も目指してきました。そしてこの意図をもっと明確に教育に反映させるために、2013年度からはコース名を「アートマネジメントコース」へと改称しました。新しいカリキュラムに則り、また新しい講師陣とともに、これからも広く社会的な使命を担っていることを内外に発信していきたいと思っています。

アートマネジメントコース 教授 山田 純

音楽教育コース

音楽教育コースでは、昨年度に引き続き「音楽教育特論」(専門科目)において、さまざまな楽器(大正琴、オカリナ、ハンドベル、吹奏楽器など)に直接触れながら各楽器の指導法を学び、指導者としてのテクニックを身につけることを目標とする授業を行っています。それらの楽器指導に加え、合唱指導の方法や、ピアノ教室を実際に開く際のノウハウに関する学び、指導的な立場に立つことのできる音楽教育者の育成に力を入れています。

また今年度の「音楽教育Ⅲ」(通称ゼミ)では、戦後発行された「中学校の音楽教科書」に基づき、季節感と音楽について調べています。今まであまり深く考えずに歌っていた数々の歌が、どのような情景を表現しているのかを知ることにより、音楽を深く理解する姿勢が身につくことを願っています。この2科目に関しては、後期も引き続き授業が行われます。

一方、9月中旬には、1年生たちとともに「日本の音」を探しに犬山に参ります。スピーカーの音、車の音、産業音、生活音などさまざまな音に囲まれ、いわば“音の氾濫”ともいえるような今日状況の中で、特に「日本の音」(鹿威しや水琴窟の音色など)に注目しようというのが目的です。日頃漠然と耳にしている音の世界ですが、焦点をしばって耳を傾けることにより、我々の音環境、音の意味を再度考えたいと思います。

西洋音楽のみならず、さまざまな音の世界に触れることにより、音と音楽に対する考え方が広がることを願っています。

音楽教育コース 教授 金子敦子

音楽療法コース

まず、昨年度のご報告になりますが、3月26日に名古屋音楽学校にて、『音楽療法への扉』と題したレクチャー&コンサートを開催しました。第一部では、



久保田進子教授

による音楽の効用についてのレクチャー、第二部では、久保田進子教授(伊藤孝子准教授)の音楽療法で用いられる楽器の説明と共に、学生たちの演奏が披露されました。会場は満員で、ご来場の方々からご好評の声を頂きました。今後、学生たちの学習の成果の発表の場として、また本コースをより広く知っていただくためにもこのような企画を行いたいと考えています。

今年度の授業としましては、引き続き地域の児童、成人、高齢者施設にて音楽療法実習を継続的に行っております。学年縦割りでグループ編成を行っており、四年生を中心とした学生たちの自主的な学習態度には、教員サイドも関心をいたしております。今後もこのような主体性を大切にしながら、音楽を通して社会、地域に貢献できる人材を育成して行きたいと考えています。

さらに、授業のみでなく、多くの学生がボランティア活動にも取り組んでいます。ミュージックボランティアというサークルは、ほぼ全員が音楽療法コースの学生で編成されており、様々な場所、形



ピアノ合奏

態で音楽療法ボランティア活動を繰り返しています。昨年度はその功績が認められ、一般財団法人学生サポートセンター様より支援(助成金)を頂きました。

今後の予定としましては、9月9日・10日に、他コースと合同で清泉寮(山梨県清里)にてセミナー合宿を行います。音楽療法コースは、ジャズポップスコースと合同で、学生と教員によるコンサートを行います。8月現在、学生たちは本番に向けて練習に励んでおります。当日の様子等は、次回のご報告でお伝えいたします。

音楽療法コース 准教授 伊藤孝子

サウンド・メディアコース

サウンド・メディアコースでは、作曲・録音・音響という、より具体的な表現方法と芸術を結びつける実践的な方法を正しく理解するために、実習を中心とした、少人数による授業を展開しています。また、通常授業と並行して、以下のイベントを実施しました。

2013年5月14日(火)、本学東キャンパス2号館中アンサンブル室にて、国際的に活躍する作曲家、ロドリゴ・シーガル氏を招き、公開講座「エレクトロコースティック・ミュージックのための作曲法」を行いました。講座では、これまでの自身の作品についてのコンセプトについてや、具体的にどのようなテクノロジーを用いてきたか、また、それらのテクノロジーと芸術の関わりについて講演いただきました。

また、8月19日(月)、本学東キャンパス3号館ホールにて、「サカナクション Visual & Talk Session」を行いました。サカナクション6thアルバム「sakanaction」の制作秘話や、アルバムを体現したツアーの詳細について、サカナクションの山口一郎氏に解説頂き、音楽が作られる過程、そしてライブが完成していく過程をレクチャー頂きました。一般の方300名と本学学生100名が参加しました。

サウンドメディアコースでは、2014年2月27日(木)愛知県芸術劇場 小ホールにて、最先端のテクノロジーとヒューマンな発想を融合させた未来志向のアート空間の創造を目指し、例年実施している演奏会「カレイドスコープ」を行います。コース学生の作品の発表と、海外からの招待作曲家の作品が演奏される予定です。みなさまのご来場をお待ちしております。

サウンド・メディアコース 講師 長江和哉

作曲コース

作曲コースでは、少人数の手厚い教育の中、音楽を創造するための基礎的な作曲理論の習熟、並びにそれぞれの学生のレベルと個性を大切にしながら、与えられた課題にしたがって、作品作りに精をだしています。そして、例年3月に行われるプロの演奏者を中心としたアンブルで、自作品の室内楽作品を実際に聞く機会が与えられています。この試演会で演奏された作品は全て録音され、学生、関係教員に配られています。さらに、学内演奏会や卒業演奏会、サウンドメディアコースのイベントであるカレイドスコープでも優秀作品が取り上げられています。

本学の作曲コースの学生は、他大学と比較して、早い

うちから自作品の演奏されるチャンスが多く有り、このことが学生個々のスキルアップにつながっています。また、外部からアレンジや作曲の依頼などもあり、単にカリキュラムのみの勉強だけではなく、より実践的な能力を養うことができます。

前期を終え、それぞれの学生が提出作品にとりかかり、これから追い込みに入るところです。

作曲コース 教授 田中範康

《演奏学科・音楽文化創造学科》

音楽総合コース

音楽総合コースは、名古屋芸術大学独特のコースです。その特徴は、学生自身がその関心に基づいて自分固有のカリキュラムを作ることにあります。一般的に各コースはその専門領域に即したカリキュラムを有し、学生たちはそれに即して定められた教科を学びます。ところが、音楽総合コースに所属する学生たちには、学部で開講されているほとんどすべての科目が受講可能です。したがって、学生たちはそれぞれの関心にもとづいて受講科目を選択するわけです。

自由に選択できることは、自分の問題意識に基づいて広い視野から学ぶことを可能にします。もっともよくある選択パターンは、ジャズポップスの実技とサウンドメディアの音楽制作の二つの領域をどうじに学ぶことで

す。もちろん、それ以外に多様な選択がなされています。

ところで、選択の幅が広いことは、特定の専門領域を深めるといふ側面と矛盾するように思えます。多様な試みが中途半端になることは避けなければいけません。そのために、音楽総合コースでは、3年次より、自由選択を可能としながら、特定のコースの中心となる教科を履修することを義務づけています。学生たちをサポートするためには、中心として二つの仕組みがあります。一つは4月1日から2日にかけての履修指導と交流のための合宿です。もう一つは半年に一度の面談です。

今年も4月合宿が豊橋行われ、入学生全員が参加しました。大学で教務からの履修指導を受けた後、バスでホテルに移動し、教員から各コース、各教科の詳しい説明を受けました。また、食事後、学生たちは交流の時間をもちました。このような形で、大学生生活を容易に開始できるようにしてあります。

面談は、学期ごとにテストの結果が判明した後に行います。ここでは、単位の取得状況、学生生活などについて確認しながら、面談を行います。ときには、学生たちより問題の指摘もあります。この場合には、問題の解決に必要な措置をとるようにしています。

音楽総合コースに対しては、各コースおよび教養の教員からなる運営委員会を設けています。学部全体で音楽総合コースを支えるわけです。

音楽総合コース 教授 中河 豊

美術学部

平成25年度がスタートして4ヶ月が過ぎようとしております。前期スケジュールもほぼ終盤に差し掛かりました。

夏期休暇を前にした美術学部の構成員(学生・教職員)達は新入生も含め、それぞれの立場で現時点での「今」を自覚でき、今、何を成すべきかを把握・理解できる安定した状態に入ってきたところと理解しております。しかしながら、社会進出を間近に控えた4年生にとって、この後に続く8月9月は、己々が自身の将来の方向を確立する上でとても重要な時間と成ります。更に申し上げます、10月から始まります卒業制作、ならびに卒業論文

制作は学生生活4年間の集大成となるとともに、明日への第一歩につながります。「やり切る」という覚悟が必要となります。努力は誰もがいきます。貴方にとって必要なものは、(強烈なる努力)です。と、4年生諸氏には申し上げます。達成感や夢を生み出してくれます。

今年度前期、美術学部では個人、クラスを問わず、学生が中心となった様々な活動が有りました。美術学部の学生達は、皆、自身のアンテナと好奇心で美学生としての本領を発揮しております。ここに数例をご紹介します。私の美術学部キャンパス報告といたします。

美術学部長 教授 神戸峰男

穴窯体験



【宇佐美容子】

私は穴窯で焚くのは今回が初めてでした。実際に見るのも初めてでした。樋口さんの穴窯はとても綺麗で、周りの環境も整備されていて、その空間にいとワクワクしてしまいました。登り窯とは違い、焚き口が一ヶ所だけで、そこから噴き出てくる炎の勢いはこれまでに経験したことのない、強いパワーがありました。薪を焼く時は戦っているような気持ちで集中しました。プロの作家さんたちが薪窯を焚くという場面に私たち学生がお手伝いをさせていただいて、勉強になることばかりでした。薪窯の魅力を改めて感じることができ、私はとても

嬉しかったです。自分の窯を持つということに憧れを抱きました。今回、樋口さんには大変お世話になりました。もっと制作に励もうと思います。そしてまた、窯焚きのお手伝いをさせていただける機会があれば、是非窯詰めから窯出しまでお手伝いをさせていただきたいです。

【河合美月】

私は今回、樋口さんの穴窯のお手伝いを三日間させてもらいました。初日、車の免許をまだ取ってなく、忙しい中、樋口さんに駅まで車で迎えに来てもらいました。他に窯のお手伝いに来ていた木俣さんも深谷さんも遠い所から車で来ていて、やっぱり車の免許は生活していく中で大切だと思い、取ってなかったことを反省しました。

また、これまで初対面の人と会うのは苦手でしたが、今回、自分が知らない知識、考えを聞いていくと、人に出会うのはとても面白く、楽しく思えました。話の中には、自分の窯を持つ事について厳しい現実があり、窯を焚くのと同じ位に勉強になったものがありました。しかし、私は厳しい現実を乗り越えて自分の作品を自分の窯で焼き、生活していこうと話聞いて思いました。

長野県の登り窯では感じなかった「これを仕事として真

剣に焚いている」のが二日目、三日目とひしひしと伝わってきました。特に、窯が1200℃を越した頃に作品を引き出す時には、樋口さんも木俣さんも雰囲気が変わり、私は怖いような何とも言えない緊張で、本当に心臓のドキドキが耳に聴こえてきました。一回目の引き出しが終わった直後に薪を入れさせてもらいましたが、息を吸う時には、喉がヒューと変な音を出したことを覚えています。

長野県の登り窯では主に温度計を重視していましたが、樋口さんの窯では火を重視するという、違う考え方を見ました。また、深谷さんや木俣さんの窯は、やり方がまったく違うという事を聞き、もっとも自分の足でいっぱい窯を見ていかなければと思いました。自分がやりたい作品に合った窯を築いていくことが大事だと分かりました。そして、窯焚きに行ってもう一つ興味が湧いてくるものがありました。樋口さんに見せてもらった陶片です。まだよく分からないけれど、これからちょっと調べてみたいと思えました。

今回の窯焚きでは沢山食べさせてもらい、沢山勉強になることができました。もっと自分の足で美術館や良い作品を見ていこうと思いました。また、人に対してもっと積極的に行動していきたいです。

GEISAI って、アートが学べて楽しいよ！

美術大学の学園祭(祭)に由来し、「アート」と「お祭り」がもたらす「熱くておもしろい」、そして「真剣勝負のアート現場にしたい」という2つのコンセプトからなっている『GEISAI (げいさい)』は、僅か1日間の開催で起こる興奮や熱狂を、すべての参加者が共有・体験することを目標に展開するアーティスト・村上隆主催の現代美術の祭典である。このイベントの歩みを遡ると、まず、寺子屋をイメージした少数のアーティストとの対話イベント「芸術道場」(2000年)から始まり、翌年の村上隆個展付属イベント「芸術道場GP (グランプリ)」へと繋がる。以降、無審査というハードルの低さながら、毎回入れ替わる国内外の著名人を審査員に、有力画廊やアート関連企業によるスカウト審査・ブース出展など、アートシーンと直結して多様に展開している。また、AKB48、ももいろクローバーZ、平野綾を出演させてお祭りイベントに花を添えている。採算面においては赤字続きとのことだが、資金不足などが原因で、短命に終わる日本のアートイベントが多数を占める中で、これほどまでに長く続いている催し物は日本では少ない。これも、国際的に活躍している村上隆個人の力が大きく作用しているからであろう。Wikipediaを参照にしたGEISAIの主旨や目的はザッとこんなものだ。

学生が関わる、GEISAI参加の意義って、何？

名古屋芸術大学美術学部がGEISAIに参加するもまだ日が浅く、昨年度のGEISAI#16に続き、今回参加の#18で2回目となる。この2つに共通するメッセージは、卒業生や在学学生の中から秀れた表現者を選抜して参加出品させていることである。#16に続き、2013年度の#18も、いずれも世界に通用する学生や卒業生を育てたいとの想いで原田久元教授が参加を決めたことだが、2013年4月からは筆者がバトンを受けて進めている。

GEISAIに参加した本学関係者出品も多数売り買いされたのだが、参加学生の中で特記すべきは、主催者側の勧めで#17にも参加した洋画2コース卒業生・和田唯奈であろう。彼女がGEISAI最高賞の1つ、『鈴木心賞』を見事！射止めたニュースは名古屋芸術大学の名を全国に高らしめたことになる。もともと、学内外で才能を十分に発揮していた学生であったが、これをキッカケに、一気にスターダムを駆け上がることが予想される。#17にて審査員賞の1つである鈴木心賞を受賞したことが、東京の新宿に在るギャラリー・Hidari Zingaroでの授賞記念展(個展)開催、そしてオランダのGallery Delaiveの



受賞作品と作者の和田唯奈さん



鈴木心賞受賞作「Drive」(サイズ175×140cm)

個展やアートフェア香港での海外展へと繋がった。まさに、原田久元教授が望んでいたことが、和田唯奈の存在によって早々に実現したことになる。

以下の①～③は、GEISAIに2回とも参加した本学関係者からの生の報告である。

①参加の良き点としては選抜されたことにより、新たな目標が生まれて、それが製作する上での向上に繋がる。

②会場スペースにおける個人の展示スペースは幅1800mm×奥行き1200mm×高さ2400mmで、決して広い空間が与えられているわけではない。しかし、全ての参加者達も同条件なため、他者に対して如何に魅せていくかということ学ぶ良い機会であった。

③作品をその場で購入してもらえという状況になった時に、自分の作品の値段について、そして自分の作品の価値について考えを持っていなかったまま、購入金額を相手の言い値である破格の安値にしてしまった。引率のものに一声かけてくれればなんとかなったかもしれないが、学生自身にもきちんとしたアート界における一点物の価値が分かっていたら良かった。お金に対して恐怖心があるのは仕方がないことであるのだが、そこを越えねばならない。

最後になるが、GEISAI参加で得ることがあるとすれば、皆が対等な立場で大人としての対応・対処を迫られつつ、この場でなくては得られぬ独特な体験から、人としての成長を自らが認めるところにあるだろう。これは、長い時間をかけたとか、深い経験に根ざしているとか以上に、参加出品の機会を得た事で、これから“自分が変わる”、また“変われる”ことを、身を持って学ぶか



GEISAIライブパフォーマンス

らに他ならない。本学がGEISAIに意義と価値を見出す限り、これからもGEISAIへの参加出品が続いて欲しいと切に願うばかりである。

以下に記したのは本学が関わった各GEISAIの開催日時と会場、本学関係の出品者名です。

■ GEISAI#16

開催 2012年4月1日(日) 11:00～17:00
開催地 東京流通センター第二展示場
出品者 前川宗睦(同時代2年)
鷲野友香(同時代1年)
亀井 梓(同時代1年)
木村 睦(同時代1年)
和田唯奈(洋画2コース3年)
☆サークルブース
大庭章嘉・奥村岳史・加藤真珠美・
近藤夕琴・吉村美穂

■ GEISAI#18

開催 2013年4月29日(月) 10:00～16:00
開催地 東京都立産業貿易センター台東館
4-5Fの2フロア開催
出品者 オ ユニア(洋画2コース卒業)
大庭章嘉(洋画2コース4年)
近藤夕琴(洋画2コース4年)
水谷美紅(洋画2コース4年)
大崎祥平(洋画2コース3年)

洋画2コース 教授 大崎正裕



GEISAI会場風景

2013年度も前期が終了し、美術学科では今年度から新たな改編のもと新カリキュラムでのスタートとなりました。夏期休業を迎え学科各コース授業も順調に進み、また新入生も新しい環境に慣れてきた様子です。

5月には恒例になったフレッシュマンキャンプが行われ、伊賀の里モクモク手作りファームに出かけました。あいにくの雨でしたが、新入生、教職員一緒になってソーセージ作りに挑戦しました。

学内では今年度美術学部客員教授でニューヨーク在住のアーティスト桑山忠明氏と美術評論家で上智大学国際教養学部教授の林道郎氏による特別対談が大講義室で行

われ、美術を志す学生たちに大きな刺激となり、間もなく開催する国際美術展覧「あいちトリエンナーレ2013」と連動して本学ギャラリー BEでは桑山氏の個展が開催されます。

その他、特別講義やプロジェクトなども各コースで数多く展開され、とても活気があるキャンパスとなっています。このような豊かな本学の環境は、美術を学ぶ若者にとって非常に有意義なことであり、自らの体験は大きな感性の刺激と将来に繋がるビジョンが育まれることでしょう。

美術学科長 准教授 須田真弘

デザイン学部

2013年度、名古屋芸術大学（4学部4研究科）入学式が4月3日に本学西キャンパスで行われました。クローバー畑の中庭を囲む桜は満開で、春の嵐のような風の吹く日でした。音楽学部のウィンドオーケストラによるジュピター（ヤン・ヴァン・デル・ロースト作曲）の演奏後、開式されました。

デザイン学部は、今年度もA.O入試・推薦入試・地域入試（自己推薦）・A日程入試・B日程入試・センター利用入試（前期）（後期）等、時期と内容の異なる入学試験を通して、多様な資質と可能性を持った新入学生を広く迎える事が出来ました。

前期スタートから今日まで、週2日午後の時間枠で、同種のメニューの実技実習を体験してきています。課題ごとに専門の教員スタッフが担当して、ローテーションして行きます。25名程が1クラスで、それが8クラスあります。デザインファンデーションと呼んでいるデザイン基礎教育の共通主要部分です。他の曜日や時間は、大学としての一般教養の講義課目やデザイン専門への基礎となる講義があり、選択性のある演習や講義等もあります。新入学生は、忙しい毎日だったかもしれません。2年学生は専門コースに向けての導入基礎、3年学生は専門コースでの展開と卒業制作研究への準備段階、卒業後への準備等を行っています。学年によって多様な前期ですが、これから迎える夏休みで体勢を整えて後期に臨んでほしいと思います。

ここでは、前期デザイン学部が学内外に対して実施した主な講座やイベント等を、項目を列挙し紹介します。

- ・ 4月6日／新入生歓迎会が行われました。



- ・ 4月17日／書道アート（横山豊蘭講師）で、「大書道体験」が行われました。



- ・ 4月17日／2013年度前期交換留学生のウェルカムパーティーが開催されました。



- ・ 4月19日／津島市×名古屋芸術大学協働プロジェクト「つしまヴィジュアル化計画」がスタートしました。



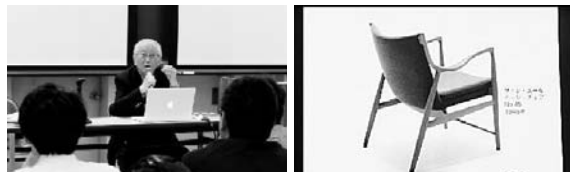
- ・ 4月27日／ファッションブランド「ミントデザインズ」デザイナーによる特別講義が行われました。



- ・ 5月5日／Blank'Newで名古屋芸術大学デザイン学部チームが優勝しました。



- ・ 5月11日／インテリアデザイナー島崎信氏による特別講義「北欧の椅子・日本の椅子」が行われました。



- ・ 5月16日／グラフィックデザイナー山崎晃氏の特別講座「私の広告論」が行われました。



- ・ 6月1日・2日／テキスタイルデザインコース学生が有松絞りまつりに参加し、手ぬぐいを販売しました。



- ・ 6月8日・9日／2013年Honda東海地区合同デザインセミナーが開催されました。



- ・ 6月13日／デザイン学部特別客員教授 加藤道哉氏による特別講義が行われました。



- ・ 6月15日／美術学部・デザイン学部のオープンキャンパスが行われました。



- ・ 6月15日／デザインと文化2公開講座、鈴木菜央氏「ソーシャルデザインで暮らしを変える」が行われました。



- ・ 6月21～26日／名古屋芸術大学OB・OG展が開催されました。



- ・ 6月22日／プロダクトデザイナー栄木正敏氏による特別講義「陶磁器デザイン」が行われました。



- ・ 6月29日／バイヤーでクリエイティブディレクターの山田遊氏による特別講義「新たな職業をデザインする手法」が行われました。



- ・ 7月4日／坂上博氏の特別講座「気持ちにしっかりと届けるために(気持ちに刺さる)“華”のあるクリエイティブ」が行われました。



- ・ 7月12日～17日／2013年度前期交換留学生作品展が開催されました。



- ・ 7月13日／藤本由紀夫氏による公開講座「デザインと文化2」が行われました。



- ・ 7月14日／美術学部・デザイン学部のオープンキャンパスが行われました。



※尚、項目ごとの詳しい内容については、名古屋芸術大学ホームページ、デザイン学部、NUA ACTIVITY REPORT / トピックをご覧ください。

※追記／デザイン学部では、一昨年より「フレッシュマンキャンプ」を実施しています。新入学生間の相互理解を深め、教職員スタッフとの親睦を主な目的とした学外授業です。連休に入る少し前の4月20日(土)に出掛けました。早朝大学に集合後、6台のバスに分乗して信州へ向け出発しました。午前中、飯田山本IC経由で「そばの城」にて、そば打ち体験をしました。全員がテーブルに分かれて粉に塗れ奮闘し、持ち帰り用のそばを打ちました。昼食はドライブインで信州そば付きのランチメニューを頂きました。午後は、伊那IC経由で「みはらしファーム」にて、いちご狩りを体験しました。ハウス内で行き来しつつ歩き続けるの試食会になりました。夕刻にかけて、飯田山本IC経由で妻籠宿へ移動しました。陽が傾いて観光客も疎らになった妻籠周辺を散策しました。現場で、調査・収集・撮影・スケッチ等、各人が工夫して旅の記録を取りました。その後、中津川ICを経由して帰路、午後7時半頃大学に到着し解散しました。盛り沢山の「信州味わいの旅」でしたが、各人が楽しみ方を見出しながら、終日過ごしてくれたようです。今回は海外からの交換留学生達が特別に参加同行しました。小旅行の僅かな非日常だったと思いますが、彼等の素直な好奇心や反応を見たり、接する中で、私達も新鮮に感じたり、考えさせられたりする事がありました。彼等は夏休み前に帰国しましたが、本学での経験や生活は、どんな印象だったのでしょうか。新入学生の過ごした前期同様、少し気になるところです。

デザイン学部長 教授 落合紀文

デザイン学科では、本年度新たに5名の契約助手を迎え、従来からの5名とあわせ念願の10名による基礎実技教育、10の専門コース教育への強力なサポート体制を確立させました。本学のOG・OBでもある彼らには、同じ教育を経験した良き助言者として、そして何より教員と学生との良きコミュニケーターとしての活躍を大いに期待するところです。

こうした新体制のもと、本年度も188名の新入学生を迎え、去る4月20日には既に恒例となった、学生間はもちろん、教員・助手との交流促進を目的としたフレッシュマンキャンプを無事終えることができました。この前期にはまた学外での学生の活躍も目立ちました。その一部を紹介すると、6月にはテキスタイルデザインコースの学生達が手がけた「絞×染Bag」が、「あいちトリエンナーレ2013」の公式グッズとして採用され販売が開始されました。ヴィジュアルデザインコースで

も「つしまヴィジュアル化計画」を現在進めており、まもなく市長への報告が行われる見込みです。また、インダストリアルデザインコースではこの7月、ラッキー工業（岐阜県のベビー関連用品のメーカー）との2年越しのプロジェクトを实らせ、学生作品の製品化が決定しています。

このように大学がその専門知識や技術、人材、設備を活かし、行政をはじめ地場産業や近隣社会との連携をはかって実施する事業は、昨今ますます盛んです。本学科でもこうした学外での活動を重要な教育研究の一環として位置づけ近年特に力を入れています。

こうして学外で毎年積み重ねられる多くの実績は、「名芸デザイン」の社会への強いメッセージであるとともに、その組織に属するもの大きな自信にもつながっています。

デザイン学部 准教授 萩原 周

人間発達学部

教員異動

人間発達学部の立ち上げからご尽力いただきました柳生みよ子講師（国語教育）が、また大学院人間発達学研究科の開設から学部並びに大学院の発展に尽くされました金田利子教授（子ども学）および中田照子教授（児童福祉学）が昨年度末をもって勇退されました。代わって平成25年4月1日付けで、久保博満准教授（国語教育）、加藤聡一准教授（子ども学）、吉村美由紀准教授（児童福祉学）の3名の新任教員を迎えました。

久保先生は書家でもあります。名古屋市の公立小中学校の校長を務められた教科教育のベテランです。加藤聡一先生はデューイ教育学の立場から子どもの生活や地域との関わりについて研究を進めておられますが、教師教育についても造詣の深い中堅の研究者です。また、吉村先生は、児童養護施設等の実務経験を有した児童福祉学、保育士養成の専門家です。

学部発足以来、所属教員の若返りが求められておりましたが、今年度までかなりの改善が図られました。若い先生方の力を得て学部がますます発展することを期待しております。

子どもコミュニティセンターの開設

昨秋、11号館1Fに、プレールームの他、砂場や子供用のトイレ、授乳室などを備えた「子育て広場」的なスペースが完成しました。これを契機に、大学の社会貢献の一環として、子育て支援や子ども中心のコミュニティの創設を考えていくことを目的に、「子どもコミュニティセンター」が設立されました。初代センター長には、古川美枝子教授が就任されましたが、センターの性格に鑑みて、全学から運営委員を選出していただきました。

未だセンターの位置づけや運営予算のあり方等の問題が十分には煮詰まっておりませんが、近い将来、全学の

共同利用のセンターとして機能していくことが期待されます。

なお、昨年度までは人間発達研究所の事業として展開されてきておりました「にこにこラクショopp」（子どもそだて子どもそだちワークショップ）は、今年度から新センターの事業として継続されており、7月末の時点で、72組の親子（未就園児とその母親）が登録・参加されています。



学部行事

(1) 新1年生の受け入れと

オリエンテーション合宿の実施

4月3日、入学式が行われ、人間発達学部には143名の新1年生が入学いたしました。翌4月4日から1泊2日の日程で、三重県賢島の「合歓の郷」を会場に、オリエンテーション合宿を行いました。新1年生にいち早く大学生活に慣れてもらうために、友人作りや大学生としての構えの形成を目的とした企画です。

再入学の1名を除く新1年生全員が参加しましたが、教員による小講義の聴取、ゼミ毎の討論への参加、寸劇や合唱等での討論結果の発表等々、どれをとっても例年以上に熱心に取り組む姿が印象的でした。大学生活の良いスタートが切れたものと思われました。

なお、今年度は自発的に名乗り出た上級生23名が、司会や進行のかなりの部分を担ってくれました。これも特筆に値することでした。



(2) 文化創造セミナーの開催

5月25日、本学1号館701教室において、附属人間発達研究所の立案による、本年度第1回の文化創造セミナーを開催しました。

講師の小西貴士氏(清里聖ヨハネ保育園園長補佐/キープ森のようちえん担当)の『子どもと森へ出かけてみれば』と題するお話とスライドショーに、1・3年生を中心とする200名程の参加学生は、子どもや遊びの本質についての深い示唆を与えられたようでした。



(3) 特別公開講座の開催

小西行郎氏(日本赤ちゃん学会理事長、同志社大学教授、小児科医)を講師にお招きし、一般の方々とりわけ保育者・教育者等を主たる対象とした人間発達学部特別公開講座が、7月27日、ウィル愛知を会場に開催されました。テーマは「赤ちゃんから学ぶ、育つチカラ～発達とその障害を理解する～」でした。

小西先生は、赤ちゃんが受動的な存在ではなく、「育つチカラ」を持った能動的な存在、であり、他者と気持ちが繋がること(このことは発達障害圏の子どもたちがもっとも困難を抱えることなのですが)に必要な「行動

を共有すること」の基礎さえも6か月の赤ちゃんが持っていること、そしてそれらの発達には胎児期の触覚や赤ちゃんの能動的な動きが基礎をなしていることを、最新の脳神経科学や認知科学の知見をふまえて話され、生活リズムや食事などの基本的育児の重要性について言及されました。

その上で、今日、発達障害が増加しているといわれる背景には、DSM等の「操作的診断法」による安易なレッテル貼りや急激な社会変化が情報処理の苦手な子どものコミュニケーションを一層困難にしていることがあることを指摘されました。

学生達を含め約400名の聴衆は、先生の“障害児・者にばかり変化を求めるのではなく、健常者自身の方こそが変わるべきだ”との結語に、感じ入った様子でした。



(4) 学生の基礎学力向上と進路開拓

昨年度の会報にも記しましたが、人間発達学部では、学生の基礎学力の向上を図り、学生が自らの志望に応じた進路を選択し、高度な職業人として巣立っていくことに最大限の支援をしたいと考えて、種々の講座やゼミナールを用意しています。

6月8日には愛私幼(愛知県私立幼稚園連盟)の模試が、6月13日には愛私幼のキャラバン隊による説明会が学内で開かれました。模試が32名、説明会が50名ほどと参加学生が少なかったのが気がりではありませんでしたが、それらの学生たちは熱心に取り組んでおりました。また、6月には、小学校教員、保育士や公務員、一般企業等、学生の志望に応じて面接試験の受け方の指導を教員が分担して行いました。

2012年度卒業者の最終就職率は91%程度でした。保育士や幼稚園教諭、小学校教諭の採用試験は比較的遅いのですが、総ての学生が志望通りの進路に進めますよう、学生諸君の一層の奮起を期待するとともに、教職員も一層の支援をしていく所存です。

(5) オープンキャンパス等

6月15日に第1回のオープンキャンパスが、7月20日に第2回のそれが行われました。どちらも昨年並みの70～80名の参加者がありました。第3回は8月24日に予定されています。

オープンキャンパスの参加者数そのまま受験者数に直結するわけではありませんが、9月8日のAO入試のエントリーを皮切りに各種の入試が行われる時期が近づきました。秋には、良い受験生が大勢集まることを期待しております。

人間発達学部長 教授 佐藤勝利

学生部報告

キャンパスを活気あふれる学生の集う魅力的な空間にする
キャンパス魅力づくりへの取り組み

前期授業が終了し、夏休みに入りました。1年生は初めての長期の夏休みをいろいろな活動しながら学生生活を楽しみ、一方では4年生は卒業後の目標実現に向けて日々活動しているところかと思えます。

我々教職員は、学生が大学4年間で主体的に学び、社会で生きていく能力を身に付けるように教育や学生生活の支援を心掛けています。しかしながら、近年、若者の興味・関心や価値観も多様化し、大学に求めるものも変わってきました。主体的に行動できる学生を育てるためには、学生の変化に対応した「学生の学ぶ(学びたい)場、学ぶ(学びたい)環境」を上げることが必要になってきました。本学でも多様な学生が学校生活を楽しく、生き生きと過ごせる「ワクワクする空間」にキャンパスをつくりあげる活動が始まりました。

これは総合芸術大学としての特徴を生かして、教職員が学生の意見も取り入れながらいろいろな企画を提案し、学生が主体的に実行できるよう支援する活動であり、現在のところ、学生の最も多く集まるスペースである東西キャンパスの学生食堂を、生き生きとした楽しい

空間に変えることを計画し、ミニライブ、作品の展示・販売、テレビモニターによる在学生の活躍や作品の紹介が行われています。

この活動が定着、浸透し、学生生活の充実、学生および大学全体の活性化につながることを目指しています。そして、ひいては地域社会にも本学が「ワクワクする空間」として位置づけられ、貢献できることを目指しています。

学生部長 教授 菅嶋康浩



■2013年度学生数

2013年5月1日現在 **総学生数 2,420人**

学 部	学 科	1 年			2 年			3 年			4 年			合計
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
音 楽 学 部	演 奏 学 科	9	45	54	12	67	79	16	54	70	13	54	67	270
	音 楽 文 化 創 造 学 科	12	36	48	30	45	75	28	29	57	27	45	72	252
	音 楽 学 部 小 合 計	21	81	102	42	112	154	44	83	127	40	99	139	522
美 術 学 部	美 術 学 科	20	72	92	18	74	92	24	91	115	25	104	129	428
	絵 画 科 日 本 画	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵 画 科 洋 画	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	造 形 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	美 術 文 化 学 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
美 術 学 部 小 合 計	20	72	92	18	74	92	24	91	115	26	105	131	430	
デ ザ イン 学 部	デ ザ イン 学 科	49	142	191	48	149	197	42	141	183	52	123	175	746
	デ ザ イン 学 部 小 合 計	49	142	191	48	149	197	42	141	183	52	123	175	746
人 間 発 達 学 部	子 ども 発 達 学 科	42	102	144	41	79	120	36	94	130	35	90	125	519
	人 間 発 達 学 部 小 合 計	42	102	144	41	79	120	36	94	130	35	90	125	519
学 部 生 合 計		132	397	529	149	414	563	146	409	555	153	417	570	2217

研 究 科	1 年			2 年			合計
	男	女	計	男	女	計	
音 楽 研 究 科	5	10	15	2	4	6	21
美 術 研 究 科	7	6	13	2	12	14	27
デ ザ イン 研 究 科	5	2	7	5	3	8	15
人 間 発 達 学 研 究 科	0	2	2	0	2	2	4
大 学 院 生 合 計	17	20	37	9	21	30	67

2013年度 年間行事予定表【音楽学部】

月	日	曜日	前期行事予定
4月	1	月	音楽総合1年セミナー(4/1~4/2)
	2	火	↓ オリエンテーション(4/2~4/6)
	3	水	入学式
	6	土	健康診断・新入生歓迎会 ↓
	8	月	前期授業開始
	10	水	履修登録訂正期間(4/10~4/12)
	12	金	↓
	29	月	休校 昭和の日
	30	火	休校 臨時休業日
	5月	1	水
2		木	休校 臨時休業日
3		金	休校 憲法記念日
4		土	休校 みどりの日
6		月	振替休日 授業日
19		日	後援会総会・教育懇談会
6月		15	土
	17	水	前期実技試験曲目提出期間(6/17~6/28)
	28	日	↓
7月	15	月	海の日 授業日
	27	土	夏期音楽講習会(7/27~7/30)
	29	月	↓ 試験期間(7/30~8/2)
	30	火	↓
8月	2	金	↓
	3	土	試験予備日
	5	月	実技試験(8/5~8/6)
	6	火	↓
	7	水	集中講義期間(8/7~8/9)
	9	金	↓
	19	月	集中講義期間(8/19~8/23)
	20	火	前期追再試験合否発表(13:00)
	23	金	↓ 追再試験(8/23~8/27)
	27	火	↓
	30	金	前期追再試験合否発表(13:00)
9月	8	日	AO入試受験診断日
	18	水	後期オリエンテーション(9/18~9/19)
	19	木	↓
月	日	曜日	後期行事予定
9月	20	金	後期授業開始
	23	月	秋分の日 授業日
	28	土	オープンキャンパス

10月	6	日	AO入試
	14	月	体育の日 授業日
	24	木	防災訓練
	25	金	芸大祭(10/25~10/27)
	27	日	↓ ※休講
	11月	4	月
9		土	推薦A入試、指定校・3年編入・留学生入試
22		金	休校 学院創立記念日
23		土	休校 勤労感謝の日
24		火	後期実技試験曲目提出期間(11/24~12/7)
7		土	↓ 大学院A日程入試
12月	23	月	天皇誕生日 授業日
	24	火	補講集中講義期間(12/24~12/27) ↓ 音楽講習会(12/24~12/27) ↓ 冬期一斉休業期間(12/24~1/5)
	27	金	↓
	28	土	閉校(12/28~1/5)
	31	金	↓
	1月	5	日
13		月	休校 成人の日
21		火	実技試験期間(1/21~1/23)
23		木	↓
27		月	後期試験期間(1/27~1/31)
31		金	↓
2月	3	月	試験予備日
	5	水	A日程・社会人・留学生入試
	6	木	3年編入・特待生入試
	11	火	休校 建国記念の日
	13	木	後期試験合否発表(13:00) 集中講義期間(2/13~2/19)
	17	月	↓ 追再試験(2/17~2/19)
	19	火	↓
	25	火	追再試験合否発表(13:00)
3月	5	水	卒業判定会議
	11	火	研究生入試
	12	水	進級判定会議
	20	木	卒業式
	21	金	休校 春分の日
	25	火	B日程・社会人・留学生・大学院B日程入試

2013年度 年間行事予定表【美術学部・デザイン学部】

月	日	曜日	前期行事予定
4月	1	月	前期オリエンテーション(4/1~4/6)
		火	↓
	3	水	入学式
	6	土	新入生歓迎会
	8	月	授業開始
	29	月	休日 昭和の日
	30	火	休日 振替休日
5月	1	水	休日 開学記念日
	2	木	休日 臨時休業日
	3	金	休日 憲法記念日
	4	土	休日 みどりの日
	5	日	休日 こどもの日
	6	月	振替休日 授業日
6月	15	土	オープンキャンパス
7月	14	日	オープンキャンパス
	15	月	海の日 授業日
	20	日	第1回体験授業 前期授業終了
	27	土	第2回体験授業
	28	日	一日芸大生
	29	月	前期試験期間(7/29~8/2)
8月		火	↓
	2	金	↓
	3	土	前期試験予備日
	7	水	前期補講・集中期間(8/7~8/9)
		木	↓
	9	金	↓
	12	月	成績伝票提出締切(教員)
	19	月	前期補講・集中期間(8/19~8/23)
	20	火	前期試験合否発表
		水	↓
	23	金	前期追再試験期間(8/23~8/27)
24	土	AO入試	
27	火	↓	
28	水	追再試験成績伝票提出締切(教員)	
30	金	前期追再試験合否発表(13:00)	
月	日	曜日	後期行事予定
9月	16	月	休日 敬老の日
	18	水	後期オリエンテーション(9/18~9/19)
	19	木	↓
	23	月	秋分の日 授業日
	26	木	9月卒業判定会議
	28	土	オープンキャンパス

10月	14	月	授業実施日 体育の日
	25	金	芸大祭(10/25~10/27)
		土	↓
	27	日	↓
	28	月	芸大祭後片付け
11月	3	日	休日 文化の日 推薦入試
	4	月	振替休日 授業日
	9	土	大学院Ⅰ期・3年編入Ⅰ期入試
	22	金	休日 学院創立記念日
	23	土	休日 勤労感謝の日
12月	7	土	浜松・金沢地域入試
	23	日	天皇誕生日 授業日
	24	月	後期補講・集中期間(12/24~12/27)
		火	↓
	27	金	↓
	28	土	冬期一斉休業期間(12/29~1/4)
1月		日	↓
	1	水	元旦
	4	土	↓
	13	月	休日 成人の日
	21	火	後期補講・集中期間(1/21~1/23)
		水	↓
	23	木	↓
	27	月	後期試験期間(1/27~1/31)
		火	↓
	31	金	↓
2月	3	月	試験予備日
	5	水	A日程入試(2/5~2/6)
	6	木	↓ 成績伝票提出締切(教員)
	10	月	社会人入試・3年編入Ⅱ期入試
	11	火	休日 建国記念日
	13	木	後期補講・集中期間(2/13~2/19)
	14	金	研修生入試・大学院Ⅱ期入試
		土	↓
	17	月	後期追再試験期間(2/17~2/19)
		火	↓
	19	水	↓
21	金	追再試験成績伝票提出締切(教員)	
25	火	後期追再試験合否発表	
3月	5	水	卒業判定会議
	7	金	転学部・転科転コース、研究生入試
	12	水	進級判定会議
	21	金	休日 春分の日
	22	金	卒業式
	24	月	B日程入試

2013年度 年間行事予定表【人間発達学部】

月	日	曜日	前期行事予定
4月	1	月	音楽総合1年セミナー(4/1~4/2)
	2	火	↓ オリエンテーション(4/2~4/6)
	3	水	入学式
	6	土	健康診断・新入生歓迎会 ↓
	8	月	前期授業開始
	10	水	履修登録訂正期間(4/10~4/12)
	?		↓
	12	金	↓
	29	月	休校 昭和の日
	30	火	休校 臨時休業日
5月	1	水	休校 開学記念日
	2	木	休校 臨時休業日
	3	金	休校 憲法記念日
	4	土	休校 みどりの日
	6	月	振替休日 授業日
	19	日	後援会総会・教育懇談会
	25	土	文化創造セミナー
	6月	15	土
7月	15	月	海の日 授業日
	20	土	オープンキャンパス
	29	月	試験期間(7/29~8/2)
8月	3	土	試験予備日
	5	月	集中講義期間(8/5~8/9)
	?		↓
	9	金	↓
	19	月	集中講義期間(8/19~8/23)
	20	火	前期追再試験可否発表(13:00)
	?		↓
	23	金	追再試験(8/23~8/27)
	?		↓
	30	金	前期追再試験可否発表(13:00)
9月	5	木	後期オリエンテーション(9/5~9/6)
	8	日	↓ AO入試受験診断日
	9	月	2年生保育所実習(9/9~9/21)
			3年生幼稚園実習(9/9~10/1)
	?		↓
月	日	曜日	後期行事予定
9月	20	金	後期授業開始
	21	土	↓
	23	月	秋分の日 授業日
	28	土	オープンキャンパス
	30	月	教育実習(小学校)(9/30~10/25)

10月	6	日	大学一次入試・AO入試
	13	日	特別公開講座
	14	月	体育の日 授業日
	25	金	芸大祭(10/25~10/28)
	?		※休講 ↓
	27	日	ミニオープンキャンパス
	28	月	↓
	11月	4	月
9		土	推薦A入試、指定校・3年編入A入試
22		金	休校 学院創立記念日
23		土	休校 勤労感謝の日
30		土	推薦B入試、社会人、大学院二次入試
12月	18	水	卒業論文提出期限(15:00)
	23	月	天皇誕生日 授業日
	24	火	補講集中講義期間(12/24~12/27)
			↓ 冬期一斉休業期間(12/24~1/5)
	?		↓
	27	金	↓
	28	土	閉校(12/28~1/5)
	?		↓
1月	5	日	↓
	13	月	休校 成人の日
	27	月	後期試験期間(1/27~1/31)
	?		↓
2月	31	金	↓
	3	月	試験予備日・卒論発表会
	5	水	一般A入試(2/5~2/6)
	6	木	↓
	11	火	休校 建国記念の日
	13	木	後期試験可否発表(13:00)
			集中講義期間(2/13~2/19)
	?		↓
	17	月	追再試験(2/17~2/19)
			↓ 保育所実習(2/17~3/1)
3月	?		↓
	19	火	↓
	25	火	追再試験可否発表(13:00)
	1	土	↓
	3	月	2年追再試験(3/3~3/4)
3月	4	火	↓
	5	水	卒業判定会議
	10	月	2年追再試験可否発表(13:00)
	11	火	一般B入試・3年編入B入試・研究生入試
	12	水	進級判定会議
	20	木	卒業式
	21	金	休校 春分の日

2013年度 入学式

満開の桜にもかかわらず、時折春の嵐を思わせる強い風の吹く4月3日(水)、2013年度名古屋芸術大学入学式が本学西キャンパス体育館で行われました。

大学院入学生(音楽・美術・デザイン・人間発達学研究所)と学部入学生(音楽・美術・デザイン・人間発達学部)が着席し、その保護者の方々や来賓の皆様をお迎えした会場で、開式に先立ち、名古屋芸術大学ウィンドオーケストラにより、曲名: Jupiter(作曲: ヤン・ヴァン・デル・ロースト)が式前演奏されました。



式辞を述べる竹本学長

定刻を迎え、開式のことに続いて、竹本義明学長から学部・大学院入学生の「入学許可」が宣言されました。この後、学長が大学を代表して出席者に式辞を述べられました。学長は式辞の中で、「現代社会は、以前のように『芸術と科学』が異質なものとして捉えられる時代ではありません。それは、人間中心である文化・芸術が社会に心の潤いを与えてくれ、科学技術に文化的・芸術的な要素、すなわち、『人間の心』の取り組みが必要とされるようになってきたからです。文化・芸術を学ぶことにより、豊かな教養を身につけ、創造力を高める能力を養うことができます。いわゆる、創造性、感性、そして発想力を高め、社会において必要とされるバランス感覚やコミュニケーション能力を兼ね備えた人材の輩出が可能となります。本学は、今年から新たな大学改革の基本目標を掲げています。その一つが「4学部の新たな融合と再編による教育の質と基盤強化」です。今まで以上に学部の融合を図り、全国でも唯一の芸術系総合大学として、ブランド力を上げ、知性と感性のバランスのとれた教養を備えた専門人を育成します。入学された皆さんは、今日から、卒業後・修了後の自らの姿を思い描きながら、目標や計画を持って大学生生活のスタートを切っていただきたい」と激励されました。



会場風景(壇上は川村大介理事長)



入学式式場入口

続いて、入学生代表による宣誓が行われました。大学院の代表と、学部の代表の学生が力強く宣誓を行いました。この後、本学の設置法人である学校法人名古屋自由学院の理事長、川村大介氏が挨拶を行い、続いて、来賓を代表して北名古屋市長 長瀬保氏から「入学された皆さんは、青春の全てを懸けて、文化・芸術に果敢に挑戦し、ご自身の知性、感性にしっかりと磨きをかけ、スキルを掴み取ってください」と入学生を激励する祝辞がありました。そして、ご出席の来賓の皆様のご紹介を行い、最後に、本学教員役職者を紹介して式典を終了しました。



川村大介理事長挨拶

式典終了後は、再び、名古屋芸術大学ウィンドオーケストラにより、新入生歓迎演奏が行われました。音楽学部演奏学科竹内雅一教授の指揮により、ロッセーノ・ガランテ作曲「Journey to the Lion's Castle(ライオンの城への旅)」が演奏されました。オーケストラの音色が会場一杯に響き、芸術大学ならではの趣のある入学式でした。



新入生歓迎演奏(指揮: 竹内雅一教授)



2013年度入学生

就 職 セ ミ ナ ー の 紹 介

学生一人ひとりの将来の夢や希望を尊重し、教員と連携をとりながら全員が希望通りの就職・進学ができるように支援を行っていますので、気軽に利用してください。※就職課では学年にかかわらず将来の進路について相談をすることができます。

2013年度 就職対策・キャリア支援行事予定表

《音楽学部》

月	学年	講 座 内 容	対 象
4	全学年	カワイ音楽講師・グレード試験学内説明会	音楽講師希望者
	1年生	大学生基礎力一斉テスト	
	4年生	就職活動について	一般企業希望者
		面接対策講座(総まとめ)・模擬面接 作文添削	音楽講師希望者 就職希望者
5	全学年	第1回 就職支援・資格取得講座受付	講座受講者希望者
		ヤマハグレード試験・システム講師説明会	音楽講師希望者
	1年生	キャリアガイダンスⅠ(大学生基礎力一斉テスト結果解説Ⅰ)	
		キャリアガイダンスⅠ(大学生基礎力一斉テスト結果解説Ⅱ)	
	2・3・4年生	ヤマハPMS講師学内説明会	音楽講師希望者
	3年生	第1回就職ガイダンス 卒業後の進路について/自己分析テスト	
	4年生	教員採用試験全体説明会	教員採用試験受験者全員
教員採用試験 説明会 願書の記載方法、及び説明		愛知県受験者	
教員採用試験 名古屋・岐阜・三重 教育委員会による説明会 作文添削		名古屋・岐阜・三重受験者	
6	全学年	第2回 就職支援・資格取得講座受付	講座受講者希望者
	3年生	第2回就職ガイダンス 業界・業種研究	
		第3回就職ガイダンス 就職模擬試験(一般常識テスト)	
		第4回就職ガイダンス 自己分析テストの返却・解説	
4年生	作文添削		
7	3年生	第5回就職ガイダンス 就職模擬試験(一般常識テスト)結果返却 就職模擬試験(SPⅠ)	
8	講座受講者	各種就職支援・資格取得講座 実施	
9	1・2年生	今から始める進路選択 (就職活動)	
	4年生	講師登録説明会・特別支援学校説明会	講師希望者
	全学年	第3回 就職支援・資格取得講座受付	講座受講者希望者
	1年生	後期からの大学生活の進め方	
10	全学年	第4回 就職支援・資格取得講座受付	講座受講者希望者
	3年生	就職活動の進め方【基礎編】 履歴書の書き方	
11	2・3年生	今から始める進路選択 (就職活動)	
		作文対策講座	
	2・3・4年生	作文添削	
	1・2年生	小学校教員資格認定試験対策講座説明会	教員希望者
12	3年生	面接対策講座・模擬面接	
	2・3・4年生	作文添削	
	3年生	就職活動のマナー・ルール・手紙	
1	全学年	第5回 就職支援・資格取得講座受付	講座受講者希望者
	3年生	就職活動の進め方【実践編】(進路別)	
	2・3・4年生	作文添削	
2	講座受講者	各種就職支援・資格取得講座 実施	
3	講座受講者	各種就職支援・資格取得講座 実施	

《美術学部・デザイン学部》

月	学年	講座内容	対象
4	3年生・大学院1年生	第1回 就職支援・資格取得講座 受付	講座受講希望者
	4年生・大学院2年生	就職ガイダンス(状況調査・現状と今後について)	美術学部・デザイン学部
5	3年生・大学院1年生	就職ガイダンス(就職活動における今後のスケジュール)	美術学部・デザイン学部
		夏季インターンシップ<ガイダンス授業>・春季インターンシップ<事後研修>	インターンシップ参加者
		夏季インターンシップ<業種・職種・企業研究 実習エントリーシートの作成>	インターンシップ参加者
		夏季インターンシップ参加申込受付	インターンシップ参加者
	4年生・大学院2年生	就職ガイダンス(就職活動の流れ・進路調査)	美術学部・デザイン学部
	4年生・大学院2年生	教員採用試験学内説明会	美術学部・デザイン学部
6	2年生	キャリアガイダンス(自己発見レポートⅡテスト説明会)	美術学部・デザイン学部
	3年生・大学院1年生	第2回 就職支援・資格取得講座 受付	講座受講希望者
		就職ガイダンス(就職適性・自己分析テストの実施)	
		就職ガイダンス(ポートフォリオ対策講座①)	美術学部・デザイン学部
4年生・大学院2年生	就職ガイダンス(ポートフォリオ対策講座②)	美術学部・デザイン学部	
	4年生・大学院2年生	就職ガイダンス(就職リスタートガイダンス)	美術学部・デザイン学部
7	3年生・大学院1年生	就職ガイダンス(ポートフォリオ対策講座③)	美術学部・デザイン学部
	4年生・大学院2年生	就職ガイダンス(ハローワーク説明会)	美術学部・デザイン学部
8 9	3年生・大学院1年生	夏季インターンシップ<ビジネスマナー講習(事前研修)>	インターンシップ参加者
		各種就職支援講座・資格取得講座の実施	講座受講者
		夏季インターンシップ研修実施	インターンシップ参加者
9	3年生・大学院1年生	第3回 就職支援・資格取得講座 受付	講座受講希望者
		就職ガイダンス(求人の見方、エントリーシートの書き方)	美術学部・デザイン学部
10	3年生・大学院1年生	就職ガイダンス(エントリーシート攻略テスト)	美術学部・デザイン学部
		就職ガイダンス(適性試験対策)	美術学部・デザイン学部
		就職ガイダンス(SPI模擬試験テスト)	美術学部・デザイン学部
11	2年生	キャリアガイダンス(進路選択に係る今後のスケジュール等について)	美術学部・デザイン学部
		キャリアガイダンス(ポートフォリオのまとめ方)	美術学部・デザイン学部
		キャリアガイダンス(美術デザイン業界・職種など)	美術学部・デザイン学部
	3年生・大学院1年生	第4回 就職支援・資格取得講座 受付	講座受講希望者
		春季インターンシップ<ガイダンス授業>・夏季インターンシップ<事後研修>	インターンシップ参加者
		春季インターンシップ<業種・職種・企業研究 実習エントリーシートの作成>	インターンシップ参加者
	3年生・大学院1年生	春季インターンシップ参加申込受付	インターンシップ参加者
	3年生・大学院1年生	就職ガイダンス(就職活動の進め方・就職ナビの活用)	美術学部・デザイン学部
12	2年生	キャリアガイダンス(履歴書の書き方など)	美術学部・デザイン学部
		就職ガイダンス(面接試験対策)	美術学部・デザイン学部
	3年生・大学院1年生	就職ガイダンス(ビジネスマナー講座①)	美術学部・デザイン学部
		就職ガイダンス(ビジネスマナー講座②)	美術学部・デザイン学部
	3年生・大学院1年生	就職ガイダンス(SPI模擬試験テスト説明会)	美術学部・デザイン学部
1 2 3	3年生・大学院1年生	第5回 就職支援・資格取得講座 受付	講座受講希望者
		春季インターンシップ<ビジネスマナー講座(事前研修)>	インターンシップ参加者
		学内企業説明会期間	美術学部・デザイン学部
		各種就職支援講座・資格取得講座の実施	講座受講者
		春季インターンシップ研修実施	インターンシップ参加者
2	4年生・大学院2年生	就職ガイダンス(ハローワーク登録会)	美術学部・デザイン学部
4	3年生・大学院1年生	就職活動オリエンテーション(新4年生)	美術学部・デザイン学部
5	3年生・大学院1年生	春季インターンシップ<フォローアップ授業(事後研修)>	インターンシップ参加者

《人間発達学部》

月	学年	講 座 内 容	対 象
4	1年生	大学生基礎力一斉テスト	
	4年生	就職活動について	一般企業希望者
		公務員試験説明会(保育職)	公務員(保育職)希望者
		面接対策講座(総まとめ)・模擬面接 作文添削	
5	全学年	第1回 就職支援・資格取得講座受付	講座受講者希望者
	1年生	キャリアガイダンスⅠ(大学生基礎力一斉テスト結果解説Ⅰ)	
		キャリアガイダンスⅠ(大学生基礎力一斉テスト結果解説Ⅱ)	
	3年生	第1回就職ガイダンス 卒業後の進路について/自己分析テスト	
	4年生	教員採用試験全体説明会	教員採用試験受験者全員
教員採用試験 説明会 願書の記載方法、及び説明		愛知県受験者	
教員採用試験 名古屋・岐阜・三重 教育委員会による説明会 作文添削		名古屋・岐阜・三重受験者	
6	全学年	第2回 就職支援・資格取得講座受付	講座受講者希望者
	3年生	第2回就職ガイダンス 業界・業種研究	
		第3回就職ガイダンス 就職模擬試験(一般常識テスト)	
		第4回就職ガイダンス 自己分析テストの返却・解説	
	4年生	愛知県私立幼稚園連盟統一試験学内説明会	愛知県私立幼稚園受験者
	4年生	愛知県私立幼稚園教員採用説明会(PRキャラバン隊)	愛知県私立幼稚園受験者
4年生	作文添削		
7	3年生	第5回就職ガイダンス 就職模擬試験(一般常識テスト)結果返却	
		就職模擬試験(SPI)	
4年生	夏期休業期間中の就職活動について	幼・保・施設希望者	
8	講座受講者	各種就職支援・資格取得講座 実施	
	4年生	講師登録説明会・特別支援学校説明会	講師希望者
9	全学年	第3回 就職支援・資格取得講座受付	講座受講者希望者
10	全学年	第4回 就職支援・資格取得講座受付	講座受講者希望者
	1年生	後期からの大学生活の進め方	
	3年生	就職活動の進め方【基礎編】	
公務員採用試験説明会(保育職)		公務員(保育職)希望者	
11	3年生	履歴書の書き方	
	2・3年生	作文対策講座	
	2・3・4年生	作文添削	
	4年生	講師登録説明会・特別支援学校説明会	講師希望者
12	3年生	面接対策講座・模擬面接	
	2・3・4年生	作文添削	
		3年生	就職活動のマナー・ルール・手紙
1	全学年	第5回 就職支援・資格取得講座受付	講座受講者希望者
	3年生	就職活動の進め方【実践編】(進路別)	
	2・3・4年生	作文添削	
2	講座受講者	各種就職支援・資格取得講座 実施	
3	講座受講者	各種就職支援・資格取得講座 実施	

■2012年度 音楽学部進路状況

2013年5月1日現在

		演奏		音楽文化創造		合計		総計
		男	女	男	女	男	女	
就職関係	公立学校教員	0	3	0	0	0	3	3
	公立学校非常勤講師	1	5	0	2	1	7	8
	公立学校非常勤講師	0	1	0	2	0	3	3
	公立学校介護員	0	1	0	0	0	1	1
	私立学校教員	0	0	0	0	0	0	0
	私立学校非常勤講師	0	0	0	0	0	0	0
	私立学校非常勤講師	0	0	0	0	0	0	0
その他教育機関	0	3	1	0	1	3	4	
小計		1	13	1	4	2	17	19
福祉関係	福祉施設等	0	0	0	6	0	6	6
小計		0	0	0	6	0	6	6
音楽講師	ヤマハ・カワイ講師	0	7	0	2	0	9	9
	楽器店講師	0	6	0	1	0	7	7
	自宅教室(ピアノ)	0	2	0	0	0	2	2
	自宅教室(他)	0	0	0	0	0	0	0
	幼稚園・保育所	0	0	0	0	0	0	0
小計		0	15	0	3	0	18	18
音楽家	奏者(フリー)	2	3	9	7	11	10	21
	ミュージカルアーティスト	0	0	0	0	0	0	0
小計		2	3	9	7	11	10	21
一般企業		2	8	11	14	13	22	35
各種団体等		0	0	0	0	0	0	0
小計		2	8	11	14	13	22	35
公務員	行政職	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0
小計		0	0	0	0	0	0	0
合計		5	39	21	34	26	73	99
進学	大学院	3	5	1	0	4	5	9
	研究生	2	13	0	0	2	13	15
	海外(留学)	0	1	0	0	0	1	1
	その他(大学・専門等)	1	2	1	3	2	5	7
合計		6	21	2	3	8	24	32
就職・進学希望なし	結婚・家事等	0	1	0	1	0	2	2
	その他	1	1	1	4	2	5	7
合計		1	2	1	5	2	7	9
活動中(調査中)	講師登録・その他	1	5	4	13	5	18	23
合計		1	5	4	13	5	18	23
総合計		13	67	28	55	41	122	163

卒業生数(9月卒業6名含む)	13	67	28	55	41	122	163
就職・進学希望者数	12	65	27	50	39	115	154
就職・進学者数	11	60	23	37	34	97	131
就職・進学率	92%	92%	85%	74%	87%	84%	85%
	92%	78%	85%				

■2012年度 美術学部進路状況

2013年5月1日現在

		日本画コース		絵画科日本画コース		洋画1・2コース		彫塑・立体造形・陶芸・ガラス		造形科彫塑選択コース		アートワイクイーズコース		美術文化コース		美術化学科美術理論選択コース		合計		総計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
就職(一般企業等(産業界))	印刷関連(製造業)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	工業製品(製造業)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他美術関連(製造業)	0	1	0	0	0	1	0	2	1	0	0	2	0	0	0	0	1	6	7
	卸売業・小売業	0	2	0	6	0	2	1	2	0	0	0	0	0	3	0	0	1	9	10
	サービス業(デザイン業等)	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	1	3	0	1	0	0	1	11	12
	その他業種(上記以外)	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3	1	4
	作家活動	0	5	0	0	1	13	3	2	0	0	0	3	0	1	0	1	4	25	29
上記以外のその他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小計		1	8	0	0	1	24	4	6	1	0	3	8	0	5	0	1	10	52	62
就職関係(非非常勤)	公立学校教員関係(非常勤)	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	8	8
	私立学校教員関係(非常勤)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	8	8
公務員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	
小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	
合計		1	9	0	0	1	28	4	6	1	0	3	11	0	5	1	1	11	60	71
進学	大学院	0	2	0	0	5	3	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	7	6	13
	研究生	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	3	0	0	0	0	0	7	7	
	海外(留学)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他(専門)	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3
合計		0	2	0	0	6	4	2	5	0	0	4	0	0	0	0	0	8	15	23
就職希望なし	結婚・家事・自宅	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	その他	0	0	0	1	0	1	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	6	6	
合計		0	0	0	1	0	1	0	3	0	0	1	0	1	0	0	0	7	7	
就職活動中	講師登録	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	1	4	0	1	1	9	0	0	0	1	3	0	0	0	0	3	17	20	
合計		1	4	0	1	1	9	0	0	0	1	3	0	0	0	3	17	20		
総合計		2	15	0	2	8	42	6	14	1	0	4	19	0	6	1	1	22	99	121

卒業生数	2	15	0	2	8	42	6	14	1	0	4	19	0	6	1	1	22	99	121
就職・進学希望者数	2	15	0	1	8	41	6	11	1	0	4	18	0	5	1	1	22	92	114
就職・進学者数	1	11	0	0	7	32	6	11	1	0	3	15	0	5	1	1	19	75	94
就職・進学率	50%	73%	0%	88%	78%	100%	100%	100%	100%	75%	83%	100%	100%	100%	100%	86%	82%	82.5%	
	70.6%	0.0%	0.0%	79.6%	100.0%	100.0%	81.8%	100.0%	100.0%	82.5%									

■2012年度 デザイン学部進路状況

2013年5月1日現在

		3ブロック						LSブロック		合計		総計	
		MCブロック		PSブロック		Crブロック							
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
就職	一般企業等(産業別)	印刷関連(製造業)	3	9	0	0	0	0	0	1	3	10	13
		車など/工業製品(製造業)	0	0	6	0	0	0	0	0	6	0	6
		その他美術関連(製造業)	2	5	4	1	0	1	0	0	6	7	13
		卸売業・小売業	0	5	1	1	0	4	0	0	1	10	11
		サービス業(デザイン業等)	3	23	2	7	0	3	1	2	6	35	41
		その他業種(上記以外)	0	9	1	0	0	2	0	0	1	11	12
		フリーランスデザイナー	1	8	0	2	0	5	1	0	2	15	17
	上記以外のその他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	小計	9	59	14	11	0	15	2	3	25	88	113	
	職	就職関係	公立学校教員関係(非常勤)	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
私立学校教員関係(非常勤)			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	2	
公務員		0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	
小計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1		
合計	9	60	14	13	0	15	2	3	25	91	116		
進学	大学院	1	0	1	0	0	1	0	0	2	1	3	
	研究生	0	1	0	2	0	0	0	0	0	3	3	
	海外(留学)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他(専門)	0	2	0	0	1	0	0	0	1	2	3	
合計	1	3	1	2	1	1	0	0	3	6	9		
就職希望なし	結婚・家事・自宅	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	その他	0	1	0	0	0	2	0	0	0	3	3	
合計	0	2	0	0	0	2	0	0	0	4	4		
就職活動中	講師登録	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	4	23	3	4	2	10	1	1	10	38	48	
合計	4	23	3	4	2	10	1	1	10	38	48		
総合計	14	88	18	19	3	28	3	4	38	139	177		

卒業生数	14	88	18	19	3	28	3	4	38	139	177
就職希望者数	14	86	18	19	3	26	3	4	38	135	173
就職者数	10	63	15	15	1	16	2	3	28	97	125
就職率	71%	73%	83%	79%	33%	62%	67%	75%	74%	72%	72.3%
	73.0%	81.1%	58.6%	71.4%	72.3%						

■2012年度 人間発達学部進路状況

2013年5月1日現在

		子ども発達学科		総計	
		男	女		
		就職	教職		公立学校教員
公立学校常勤講師	12			5	17
公立学校非常勤講師	2			0	2
公立幼稚園教員(正職)	0			0	0
公立幼稚園教員(臨職)	0			1	1
私立学校教員	0			0	0
私立学校常勤講師	0			0	0
私立学校非常勤講師	0			0	0
私立幼稚園教員	1			23	24
小計	16		30	46	
福祉	公立保育所(正職)	0	6	6	
	公立保育所(臨職)	1	4	5	
	私立保育所	3	19	22	
	福祉施設(保育士等)	3	4	7	
	学童保育所(クラブ)	1	1	2	
小計	8	34	42		
一般企業	6	5	11		
各種団体等	0	0	0		
小計	6	5	11		
公務員	行政職	1	1	2	
小計	1	1	2		
合計	31	70	101		
進学	大学院	0	0	0	
	研究生	0	0	0	
	海外(留学)	0	0	0	
	その他(大学・専門等)	0	1	1	
合計	0	1	1		
就職・進学希望なし	結婚・家事等	0	2	2	
	その他	1	4	5	
合計	1	6	7		
活動中(調査中)	講師登録・その他	7	3	10	
合計	7	3	10		
総合計	39	80	119		

卒業生数(9月卒業4名含む)	39	80	119
就職・進学希望者数	38	74	112
就職・進学者数	31	71	102
就職・進学率	82%	96%	91%

先輩の活躍



音楽療法士として 日々成長

2012年度 音楽学部
音楽文化創造学科
音楽療法選択コース卒業

藤原弥生



私は今年の4月から横浜にある高齢者デイサービス施設「デイサービス シャンテール鶴見」で音楽療法士兼介護職員として働いています。

シャンテールの特徴は音楽療法を毎日行っているという点です。シャンテールでは音楽療法の時間が毎日実施される為、プログラムもその日來所される利用者様や天候などに合わせてその日のセラピストが当日立てます。

現在、私は先輩音楽療法士のサポートを受けながらセッションを行っています。一人一人の性格や認知の度合い、身体的な麻痺の度合いなど、一日を通して利用者様と関わるからこそ分かる細かな情報を参考にして、音楽療法を実施することができるのは特徴でもあり強みで

もあると思います。私は音楽療法士の他に入浴業務の責任者として、午前中は基本入浴に携わっています。入社して2か月で大きな業務を任された為最初は戸惑いましたが、最近では徐々に慣れ、責任感を感じると共にやりがいも感じています。一人一人介助の方法が異なり、日々利用者様の身体の状態が変化する為対応が毎回大変ですが、その分利用者様との距離が以前よりも近くなったと実感します。「ここのお風呂が一番」「こんなに贅沢させてもらったのは初めて」と利用者様から声を掛けていただける事が一番嬉しい瞬間です。

大学から音楽療法を学び始め、今こうして音楽療法士として働いています。しかし音楽療法は答えがないため、日々試行錯誤の繰り返しです。大学時代、授業での実習の他に児童や高齢者のデイサービスでボランティア活動を行っていましたが、今それが良い経験だったと改めて感じます。

4月当初は初めての一人暮らしで慣れない土地での生活に戸惑っていましたが、最近やっと社会人としての自覚や責任感を感じることができるようになってきました。今後は音楽療法士としてもそうですが、人としても一人前になれるよう成長していけたらと思います。

(デイサービス シャンテール鶴見 勤務)

スタートライン

2012年度 美術学科
日本画コース卒業

植村佳奈恵



自分の携わった仕事で人の心を動かしたい、人を感動させるような、そんな仕事がしたい。そんなことを想い私は、舞台芸術の世界に飛び込みました。私が働いている会社は、主に舞台照明を、時には舞台装置の仕事も行う割とオールマイティに舞台演出を行っている会社です。

さて、この舞台照明の世界、実はものすごく厳しい世界です。普通の仕事は7割出来ていれば褒められるのに、この世界は10割出来ているのが当たり前、9割出来ていても残りの1割が出来ていなければ怒られる、そのように先輩が話して下さいました。私も作中に泣いてしまったり、仕事が終わって泣きながら家に帰ってきたこともあります。しかしそんな厳しい先輩が仕事の後、自分の仕事に対する考えを聞かせてくれることもあり、そのようなお話はすごくためになります。先輩方や他社

の方が声を掛けてくれたり、「頑張れよ。」の一言がすごく嬉しいです。

私がこの仕事を始めて感じたことは、一つの舞台を演出するために、その舞台はどんな物語なのか、この場面はどんなイメージが求められているのか、もっといろんなことを学び、いろんなものを見て経験しなければいけないということです。一見舞台に関係の無いようなことでも仕事で役立つ場面がある、と

先輩がおっしゃっていて、自分の経験は絶対に無駄にならないということを改めて感じました。そして先輩方がたくさん努力されているということ、自分の信念の元、夢に向かって仕事に取り組んでいる姿はとても素敵です。同期と一緒に頑張っている子も、将来はこんな仕事がしたいということを私に語ってくれました。私はやりたいことに向かって努力している人が大好きだし、尊敬します。そして自分もそうありたいと思っています。そんな人達の中で一緒に仕事をすることは自分にとってすごく刺激になります。

まだまだ自分の目指すもののスタートラインに立ったばかりです。夢に向かって着実に進んでいきたいと思えます。

(有限会社自由舞台 勤務)



一步一步着実に

2011年度 デザイン学部
デザイン学科卒業

堀内雄太

私はスズキ株式会社の四輪デザイン部モデル造型課の新入社員として働いています。

モデル造形課とは、インダストリアルクレイという粘土やCGを使用し、デザイナーが描いた車のスケッチを元に二次元から三次元の立体を造形をする部署です。私の業務内容は主にクレイモデル実習や実務の手伝いで、上司や先輩達の指導を受けながら一人前のクレイモデラーになるための訓練を日々行っています。私は学生時代にクレイモデリングやCGモデリングを特別に練習した訳では無く、課題の一環として経験した程度で何もかもが初心者です。そのため上手くいかないことや失敗することが何度もあります。しかし、スズキではクレイモデラーとして一人前になるために、とても長い期間の研修スケジュールが組まれているので、クレイモデリン

グの経験が少なくてもやる気があれば着実に成長することができます。単純に一人前のクレイモデラーを目指しても期間が長いので目標が漠然としてしまい、何をすれば良いのかがわからなくなってしまいます。そのため私は、目の前の課題を確実に達成するという事に集中して、無理をするのではなく自分のペースで努力し、確実にスキルを習得することが重要だと思いながら研修に励んでいます。

クレイモデルの勉強を本格的にしたことがない私ですが、大学生活での、確実に課題をこなし、楽しむところは楽しんだ経験が、今の仕事に生かされていると感じています。技術も大切ですが、それは鍛錬すれば身につきます。大切なのはひとつずつ確実に課題をクリアしていくことと、車や、モノを作ることが好きだという気持ちです。

学生のみなさんは、もちろん課題も大切ですが、学生生活を思いっきり楽しんでください。遊びやバイトの中で身につくことも沢山あると思います。学生の時、課題と遊びが両立できていなかったら、今の私はいませんでした。今後も一人前のクレイモデラーを目指し、一步一步着実に進んで行きたいと思っています。

(スズキ株式会社 勤務)

小学校教諭としてがんばっていること

2012年度 人間発達学部
子ども発達学科卒業

岡田 洋

私は今年の4月から名古屋市の旭丘小学校で2年生の担任として働いています。何をやるにも初めてでわからないことや戸惑うことが多く、しっかりと仕事ができるようになるのだろうかという不安を抱えながら、忙しい毎日を過ごしています。しかし、辛いことばかりではなく、子どもたちの笑顔にかこまれながら楽しく仕事をしています。

新学期が始まり、慌ただしい日々を過ごしていると子どもたちを見ることを忘れてしまうこともよくあります。私はこの1年で子どもたちの様子をよく見て、深く関わろうと思っています。そのために、勉強面と生活面の両方の面で子どもたちを支えていこうと思っています。

勉強面では、授業研究に力を入れていきたいと思っています。忙しくて授業研究ができない日もありますが、そんな日の授業での子どもたちの表情を見てみると、つ

まらない、わからないといった表情をしています。逆に授業研究をしっかりとしたことができた授業では、子どもたちの表情が変わります。とても楽しそうな表情をみせることもあれば、わかった！という表情をしたりします。少しでも子どもたちのためになるような授業をするために、わかったという表情を増やすために、授業研究を毎日していきたいと思っています。

生活面では、いくつか頑張っていきたいことがあります。1つ目は、自分の考えを伝えることができるようにすることです。2年生ぐらいの子どもたちは、自分の考えをまとめて伝えることができません。そのため、子どもたちの伝えたいことがわかって先を促すのではなく、待つことにしています。待つから聞くことによって、子どもたちが考えたことを伝える機会を作っています。2つ目は、メリハリのある生活をさせることです。楽しむときには全力で楽しむ、勉強するときには集中する。より子どもたちの能力を引き出すために、メリハリのある生活ができるように指導しています。この勉強と生活の面を頑張る指導をしていきたいと思っています。

私は少しでも子どものためになることをしたいと思っていますので、どうすれば子どもたちの成長につながるのか考えて、日々努力していきたいと思っています。

(名古屋市立旭丘小学校 勤務)



University of Brighton
Degree Show

ブライトン大学 ディグリーショー (卒展)報告



ブライトン大学中庭を見わたして

5月30日に会長代理として、名古屋芸術大学後援会長賞授与のため、審査と授与の出張をさせていただきました。

ブライтонはイギリスの南西部に位置し、遊園地などを有するイギリス最大のリゾート地、人口は約25万人。本学と提携校のブライトン大学は学生数2万3千人、美術学部は4500人で、留学生はそのうちの10%です。

審査参加者はデザイン学部準教授櫃田珠美先生、洋画の傍島幹司先生、国際交流の加藤多美子さん、イギリス在住の河野先生と飯田です。

20コースのうち学部の先生が選ばれた31作品を見て回りました。賞のうち分けは、1位1名賞金400ポンドと賞状、2位1名賞金300ポンドと賞状、3位2名賞金150ポンドと賞状、佳作8名賞品と賞状です。コースも本学にはない「パフォーマンスとビジュアルアート」やファッションもいろいろなコースがあり、楽しめました。

1位の作品は「3Dデザイン科」の学生で、作品は二つあり、一つはキルトの壁掛けです。キルトのそれぞれの画像にアイパッドを近づけるとキルトの絵柄を認識しアイパッドに画像が流れるという仕組みです。コンセプトがとても素晴らしいということで受賞しました。キルトの作成者はお母様です。二つ目の作品は日時計になる椅子、作成は大学の技術スタッフ、デザイン科の学生なのでこういったものを作りたいというコンセプトさえしっかりしていれば、それを支える技術スタッフが揃っているというところが素晴らしいです。

他のどの作品も素晴らしく、表現方法が幅広く、普段見慣れていない私にとってとても新鮮でした。統計などのデータをホログラムのようなものや色に変換して表



受賞の様子

現したり、立体工作のような彫刻作品、パフォーマンスで受賞した作品は「自分を深く見つめ壊れやすいものは緊張と痛みを伴う」を表現するために作者自ら釘の上につま先立ちで立つというものでした。親心としては長い間立っていて足の筋肉は大丈夫なのかとかそんなに無理しなくても、余分なことを考えてしまうのですが自ら考えたことをやりぬき、とことん表現にこだわる芸術性は素晴らしいです。本学の学生も生で見られる機会が増えると良いなと感じました。

授賞式は本学以外にソウル大学の賞やブライトン大学の賞、子供を在学中に亡くした親御さんの賞など個人の賞がたくさんありました。

当日は偶然ですがブライトン大学のカラー紫の着物で出席させていただきました。

後援会副会長 飯田康子



受賞作品のキルトの壁掛け



受賞作品の日時計になる椅子

International Student Information

2013年度前期ウエルカムパーティーを開催

西キャンパス2013年度前期ウエルカムパーティーが、4月17日(水)学生食堂において開催しました。前期交換留学生は、イギリスブライトン大学4名、ファルマス芸術大学1名、NABA大学1名の計6名(女性)が来学しました。

今年度も多数のボランティア学生の協力のもと順調に進みました。

交換留学生達と少しでも交流を深めようと積極的に語りかける姿が随所で見る事が出来、これを機会にお互いの交流が少しでも進展することを願いました。

また西キャンパスは交換留学においては、受入だ

けでなく派遣も盛んに行われています。毎年多くの学生達が、自己研鑽のため意欲的に参加しています。

また今年度は、イギリス・ウォルバーハンプトン大学夏季英語語学研修も再開され多数の応募があり、参加学生達は積極的に情報収集や事前準備に余念がありません。さらに韓国慶南大学校夏期グローバルハンマにも西キャンパスからも参加することになりました。

本学の国際交流は、規模は大きくありませんが1人1人の状況に沿った特色のある国際交流を目指しています。

西キャンパス 学生支援課



大学へのお問合せ先一覧

内 容	担当部署	電話番号	
学納金(学費)について	庶務会計課	東キャンパス (音楽学部・人間発達学部) 0568-24-0315 (代)	
成績について 証明書発行について	教務課		
休学・退学について 課外活動・大学祭等について 住所変更等について 就職について 資格取得講座について アルバイトについて その他学生生活全般について	学生支援課		
本学入試に関すること 本学大学院進学について 本学研究生・研修生について	広報入試課		
教員免許・学芸員資格について	教職センター(実習指導室)		
交換留学について	国際交流センター(学生支援課)		
生涯学習講座について	生涯学習センター(学院広報室)		0568-24-0359 (直通)
音楽学部主催の演奏会等について	演奏課		東キャンパス 0568-24-5141 (直通)
アート&デザインセンターで開催 する展覧会について	アート&デザインセンター		西キャンパス 0568-24-0325 (代表)
後援会について	事務局(事務部長)		東キャンパス 0568-24-0315 (代表)

大学事務局で保護者の方からのご質問やご相談にお応えする場合、以下のような確認をさせていただく場合があります。特に個人情報が含まれる内容に関しては、ご子女の「学籍番号」の確認、本人の確認、保護者の確認を行った後、ご質問やご相談にお応えします。大学に登録されている情報と異なる場合は、お問合せに答えることができませんので悪しからずご承知おきください。

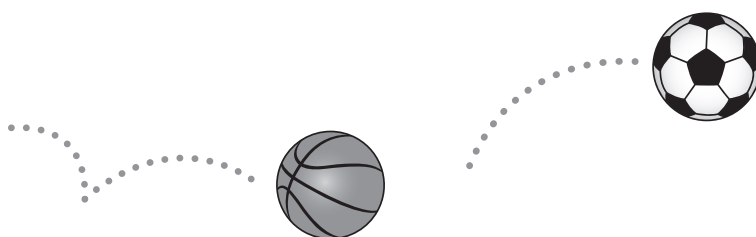
なお、連絡先等を変更された場合は、お手数でも変更の手続きをなされますようお願いいたします。変更の手続きが行われなければ本学からのお知らせや成績等をお届けすることができなくなります。

クラブ・同好会紹介 〈東キャンパス〉

	クラブ・同好会名	活 動 内 容
1	K A R A D A 研 究 会	演奏家として必要な筋力・持久力を身につけるために、日々筋トレを行い定期的に演奏会を行う。
2	ジ ャ ズ 研 究 会	楽器を持ち寄って、定期的にセッションを行いお互いのスキルアップを図る。初心者でも気軽兼ねなく参加できるように、基礎的なところから研究し、応用できるようにする。
3	Jampa Swing Orchestra	日々のトレーニングから楽器のスキルアップを図り、その結果として定期的なライブ活動を行なう。また、団体行動を通して協調性、社会的モラル、マナーなどを身につけ、心身・技術ともに向上することを目的とする。
4	フ ッ ト サ ル 部	フットサルを通して体力やコミュニケーション能力の向上を目指す。
5	フラワーショットテニスクラブ	テニスを通し、他学科・他学年との交流を深めるとともに、心身を鍛え、テニスを楽しみ、人間的に成長すること。
6	ミュージックボランティア	大学での授業の実習以外での音楽・音楽療法活動をする。
7	子ども文化サークル	人形劇の制作をし、幼稚園や保育園、老人ホームで発表を通して様々な年代の人と交流する。
8	自然と暮らしを楽しむ会	都会での人工的な生活に慣れて、人間の生活は自然の営みに支えられていることの実感を見失いがちになっています。今ならまだ身近にも発見できる、自然の不思議さ、逞しさを実感し、自然の恵みによって私たちの命と生活が成り立っていることを体感することができます。自然についての知識や技術を沢山たくわえ、次世代にも伝えていきます。
9	爆 音 楽 部	バンド活動やセッションを通じて、複数人とアイコンタクトでコミュニケーションをとり、信頼関係を育んだり、即興演奏を通して臨機応変に対応する力を養う。
10	B・B・Z(バスケット部)部費なし	将来的には学生リーグに登録し、1部までいって名古屋芸術大学の名を県内に広げる。
11	ルーディメンツクラブ	インターナショナルルーディメンツ、コンテンポラリーハイブリッドドラムルーディメンツ等のあくまでも基本形を習得し、個々に対してのより合理的な奏法を確立することにより、表現の幅を広げ音楽的自立を目指す。
12	和 太 鼓 部	地域や外部の方々と交流する中で、和太鼓の楽しさ・すばらしさを演奏を通じて伝えるため。
13	ワンダーフォーゲル	自然を通して活動し、基本的知識や行動を身につける。自然体験活動リーダー、ネイチャーゲーム指導員の資格を取得する。
14	ダンスサークル	集まった友達と先輩・後輩と共に踊ることで自身の体を鍛えながら交流を深めていく。また、芸大祭や、新入生歓迎祭においてダンスサークルとしてステージの上で発表し、盛り上げることで学生活動に貢献する。
15	すくらん部	子どもと関わりながら工作や折り紙、手遊びなどを通してボランティア活動をする。
16	リズム体操部	「創って、動いて、指導して」をモットーに学内外問わず様々なイベントや大会に積極的に参加し、体の動かし方、指導力や補助力、言葉かけの向上や子どもたちに体を動かすことの楽しさを伝えることを目的とする。
17	中 音 部	音楽を通して仲間との交流を図り、他学年や他学部との交流を増やし、大学生活をより充実させていく。
19	冒険 K I D ' S	自然豊かな岐阜県郡上八幡で春夏秋冬を通し、小学生に自然とふれあう事の楽しさを伝え、一緒に学び、遊びながら「楽しく」「安全に」「予定通りに」サポートスタッフとして勤め、私たちが目指す将来に役立つ「何か」を学びとる。
19	人間発達学部吹奏楽部 N o i s e b a n d	子どもから大人まで、たくさんの人に吹奏楽の生の演奏をきいてもらって、音楽の楽しさを伝え、私たちも音楽を楽しむより良い演奏をするために活動している。
20	自 由 工 房	子どもたちと関わりながら、工作やクラフト、壁面構成をし技術を高める。また、児童館や施設へボランティアに行く。
21	N o i r	みんなで協力してひとつのショーを作り上げる。その中で、他学部他学年の学生と交流を深める。
22	ウ イ ン タ ー ス ポ ー ツ	学校でのスノーボード合宿をきっかけに、ウィンタースポーツの楽しさに気づき、そのメンバーでサークルを作りました。ウィンタースポーツは敬遠しがちなスポーツだと思うので、ウィンタースポーツの楽しさを知ってもらえるきっかけとなるサークルしたいです。
23	H . B a l l	ハンドボールを通じて、仲間と触れ合い楽しむと共にハンドボールの技術を高めていく。
24	女 子 ス ポ 同 好 会	バスケットボールなどのスポーツをして交流を深める。
25	E X I A ' S (エクシアズ)	スポーツ初心者でも楽しくスポーツができるをモットーに発展させていくことが目的。
26	ソ フ ト テ ニ ス 同 好 会	ソフトテニスの上達のため、目標に向かって練習をし人と人との交流を深める。
27	M s i c (エムシック)	音楽を通じて音楽に興味がない人に対して音楽の楽しさ、面白さをつたえる。音楽の情報を交換したり道のジャンルに触れ、自分の中の音楽の幅を広げ、同じ興味関心を持つ仲間と楽しむ。

クラブ・同好会紹介 (西キャンパス)

	クラブ・同好会名	活 動 内 容
1	T e n n i s 部	幅広い学年、学科の仲間とテニスを中心にコミュニケーションを楽しむ。
2	G O N C E スキー部	スキーやその他のスポーツを通して、充実した学生生活を送ることにより、心身ともに成長する。
3	着 付 け 部	日本の文化に触れることにより、制作の幅を広げる。着物を見るだけでなく着てみることにより、日本文化により多く触れる。また、着付け方法を教えあうことにより、学生同士のコミュニケーションの場とする。
4	空 手 道 部	空手を通じ心身を鍛えるとともに礼節や伝統を尊重する態度を養う。礼節、勇気、忍耐力、内省、克己、利也、協調性、思いやりなど社会的能力や高い徳性を養う豊かな人間教育を目的とする。
5	バ ト ミ ン ト ン 部	学年を超えて活動を共にすることで、交友関係を広げる。週1～2回の活動で、健康的に体を鍛え、体力をつけることを目的とする。
6	サ ッ カ ー 部	サッカーというスポーツを通じて、心身を鍛える。合宿などの活動をする中で、学年を超えて仲を深め、コミュニケーション能力をあげる。
7	動 画 漫 画 研 究 部	動画・漫画制作の機会に触れて、制作の楽しさや大学を知ってもらい、その活動の中で部員同士の交流を深めていく。
8	写 真 部	写真技術の向上と写真表現の研究、写真部員同士による写真と美術、デザインに対する関わりの研究。
9	自 由 音 楽 部	学校内外を問わず、イベントに向け仲間たちと切磋琢磨し、日々練習していく。
10	軽 音 部	音楽を通じて違う学科の学生と交流を深め、大学生活を充実させることが目的。それぞれバンドを組み活動を行い、技術の上達、交流を深める。
11	陶 芸 部	自ら粘土を形成して陶磁器などを作ることにより、創作意欲を高め、それを自ら販売することで交流を深める。
12	サマータイムブルース(野球)	社会人と野球をすることで社会との交流を深める。
13	版 画 部	版画コース以外の部員も工房を使い、展覧会の発表に向けて作品制作を行う。
14	バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 部	学年関係なくバスケットボールを楽しみ、共に汗をかき、人との交流をより深める。
15	バ レ ー ボ ー ル 部	バレーボールを通じ、年齢や学科の壁を超えた触れ合いと、みんなで流す熱い汗から得られる達成感や満足感を感じる。今後の人生において、人脈を広げる。
16	演 劇 部	芸大祭での演劇公演に向け稽古に励む。
17	フ ォ ー ク ギ タ ー 部	フォークギターの練習をして、ライブ活動をする。また、ギターを通じ、ともに音楽への興味関心を深め極めていく。
18	ス ト リ ー ト ダ ンス 部	ダンスという全身を動かすスポーツにより、心身のリフレッシュ、また体力の増進を主な目的とする。芸大祭においては、ステージでの演技発表を目的とする。
19	映 像 研 究 部	ここ数年、表現の幅が拡大している映像メディア。それを通じて個人にどのような影響があり、社会にはどんな変化があるのかを研究する。又、この研究において映像制作を行う。
20	チ ェ ア ー ズ	子供たちに一生懸命ものを作る楽しさを知ってもらえるような、外で汗をたくさんかいて走り回ってもらえるような、遊びができる環境や時間の提供をしていく。
21	造 形 研 究 部	多種多様な立体作品を制作し披露する。授業では扱わないような内容を重点に切磋琢磨していく。
22	茶 道 部	茶の道を極め、精神と姿勢を正す。
23	SweetCandyBoys&Girls	アウトドアな活動に積極的に取り組み、自然のありがたみを体で感じる。
24	ウ イ ン ド サ ー フ ィ ン 部	ウインドサーフィンの技術向上と基礎体力をつけて健康的な体を作る。仲間を増やし、キャンパスライフを豊かにする。
25	ス ト リ ー ト ス ケ ボ ー 同 好 会	学部、学年問わず、みんなで楽しくスケボーをする。各自が制作に行き詰まったときにリフレッシュすることを目的とする。



親の想い

自分の進むべき道へGO!

音楽学部 音楽文化創造学科
4年 母 岩松さわ子

大学に入学してから6年目になります。

3年生になった頃から、学校に足が遠のき家にいることが多くなりました。4年生が終わる頃、単位が足らず留年が決まった時、「別に卒業しなくてもいい」と言っていましたね。でも親としては、あと少しで卒業できるのにこのまま辞めてしまうのは、残念な気持ちでいっぱいでした。

卒業にこだわらず、自分のやりたいことをみつけそれで生活していけるのであれば、彼の人生だしそれはそれで仕方のないこと。でも学校に戻りたいと思う時がいつかくるのではないだろうかというかすかな期待もあり、その時に戻る場所を作っておいてあげたいという気持ちもありました。

話し合った結果、1年休学という形にしました。

休学している間バイトしながら、彼なりにいろいろ考

えていたと思います。家では、口数も少なく何をどう考えているのかさっぱりわからないので、わたしも悶々とした日々を過ごしていました。

2月の終わり頃でしょうか。「学校に戻りたいんだ。卒業したい」と言われた時、とても嬉しかったです。自分の将来をみつめ、卒業することの意味を気づいてくれたことに、とても嬉しかったです。休学した1年間は、彼にとって無駄ではなかったと思っています。その想いを胸に、卒業までの後残り少ない大学生生活、悔いのないようenjoyして欲しいです。

今年4月より一人暮らしを始めました。たまに息子のアパートに行く時、前日から、ワクワク、ドキドキします。いくつになっても可愛いもんですね。

離れてみてまだまだ子離れが出来ていないことを実感しました。嫌われないように、適度に会いに行くことにします。でももう少し会話をしてくれると嬉しいかな。

今後自分の決めた道をしっかり歩いて行って欲しいと思います。親として見守ることしか出来ないけど、応援しています。

笑顔とファイトで!

音楽学部 音楽文化創造学科
2年 父 角谷一彦

早いもので、よちよち歩きしていた娘が大学生。月日の流れの速さには、驚くばかりです。私が仕事から帰ってくるのをいつも玄関口で待っていてくれたのが、昨日のように思い出されます。忙しい時期だったので、なかなか一緒にいることもできなかったのですが、日曜参観や運動会には必ず出席した記憶があります。

音楽が好きで小さな時から楽器を習い、中学・高校では、吹奏学部に入って日々練習に明け暮れていました。身近で娘の様子を見たり、話をしたりすることが当然のことと思っていましたが、今となっては懐かしく感じます。

大学生になり、少し親の手元から離れていく娘の姿を見ると、娘とは反対に「子離れ」していない自分を感じます。栄養面を考えて食事をとっているのか?友達とはうまくいっているのか?講義はわかっているのか?……。毎日、「おはよう」メールを娘に送っていますが、返事が返ってくるだけでとてもうれしく感じるのは私だけでしょうか。

先日、娘の成人式用の着物合わせと写真を撮りに行きました。娘と一緒に写真を撮りましたが、成長した娘を見るとうれしいやら、恥ずかしいやら…やや複雑な気持ちになりました。

大学生生活を娘自身、とても有意義に過ごしているようです。人の関わり合い、知識の習得、資格取得等、今しかできないことを大切にしながら、社会人となってほしいと願っています。

「笑顔とファイト」で、後悔のない、有意義な大学生生活を送ってほしいと思っています。

いつも応援していますよ。



子の想い

1 に練習、2 に練習

音楽学部 演奏学科
2年 有川未希

まず、大学生1年半を振り返り良かったなあ、と感じる事。

高校は普通科進学校、選んだ部活動はバリバリ運動部。そのため周りに楽器や歌の得意な人がいなかったのでも競争意識がありませんでした。しかし、今の環境はデキルのが当たり前なので更に上を目指そう、と高い意識がもてるようになりました。

逆に、こんなハズではなかったのに…と思ったこともあります。

それは、案外忙しいこと。通常授業は勿論、授業後の練習、サークルにも参加し、またもや練習。おまけにバイトで悪戦苦闘。大学生は休みが多く、大いに遊べると想像していましたが練習の時間を作らないといけなないので、思うほどお休みはありません。

けれど、技術の向上は大きな目標のひとつです。ただ

練習は、好きではありません。でも仲間には負けられない。だから、やはりコツコツと練習を重ね 感動してもらえる演奏ができるよう努力していきたいです。

更に大きな目標は、クラシックの演奏会出場。オーディションに合格した人しか出ることの許されない舞台に是非とも立ちたいです。

そして、車の免許もとりたいたなあ。

最後に、1年半前は現役で大学生になるべきか迷っていました。しかし、新しい人との出会い、音楽との出会いが本当に良かったと思っています。必ず就職します、勿論奨学金もお返しいたします、だから、卒業までご協力 よろしく願いいたします。

以上

まあね、そこまで言われたんじゃ応援しない訳にはいきませんね…。

健康第一からだだが資本です。そして、屈託のない、その笑顔を忘れずに、ガンバレ。(母)

「せせらぎ合唱団」 団員募集

この合唱団は、名古屋芸術大学後援会のコーラスグループです。会員は、大学在学中及び卒業生の父兄が毎月1回第三土曜日の午後1時30分から3時まで、東キャンパス4号館3階のオペラ教室で、江端智哉先生と山田正丈先生が発声の仕方からパート練習をして音を覚え、全体でハーモニーを作る指導を受けています。初めての方でも歌い続けていく中で、少しずつ合唱の楽しさを実感できるのです。発足して14年目になり、これまで大学祭で混声合唱曲「ふるさとの四季」(源田俊一郎編曲)を発表したこともあります。今は、「りんごのふるさと」「キャッツ」からメモリーの曲を練習しています。この4月からは新入会員も加わり、仲間が増えつつあります。是非この仲間に加わってくださることを待っています。練習日は、年内は9月21日、10月19日、11月16日、12月21日です。

〈問い合わせ先〉

会長 長江政則
〒480-1214 瀬戸市上品野町927
電話：0561-41-1655 携帯：080-3621-7706
副会長 千石智子
〒488-0863 尾張旭市城前町上大道4084-6
電話：0561-53-4222 携帯：090-8469-4324

絵画グループ 壁の華 会員募集

この「壁の華」は、名芸大後援会の有志により「絵を描いて楽しもう」と、20数年前から活動を続けている絵画グループです。毎回、大学の先生方により懇切丁寧なご指導を頂き、年一回、名古屋市内で展覧会を行い、会員の作品を発表しております。後援会に関係のある方ならどなたでも入会して頂けます。入会すれば絵画を通じて、先生方や会員同士の交流が深まり、生活が楽しく、人生に潤いが生まれて参ります。会員一同ご入会をお勧め致します。

【活動状況】

1. 例会 毎月第三日曜日 午後2時～4時 西キャンパス
2. グループ展 毎年5月上旬(1週間) 名古屋市民ギャラリー
3. スケッチ会 10月予定
4. 懇親会

〈問い合わせ先〉

会長 宇佐見 誠也
〒489-0874 瀬戸市幡野町508
電話：0561-21-4567 携帯：090-7305-8205
運営委員長 森部 みや子
〒492-8075 稲沢市下津町西下町58
電話：0587-32-2814

TOPICS *pick up*

名古屋芸術大学音楽学部公開講座 パリエコール・ノルマル音楽院副校長、ジャンルイ・マンサール氏による フランスピアノ作品の解説と公開レッスンが行われました

2013年5月9日(木)、本学音楽学部の公開講座が東キャンパス3号館ホールで開催されました。今回は、本学と学術交流協定を結んでいるパリエコール・ノルマル音楽院副校長のジャンルイ・マンサール氏をお迎えし、第一部として、マンサール氏による「フランスピアノ作品の解説と公開レッスン」が、第二部では両校の「交流作品演奏会」が行われました。

音楽学部教授堀田秀雄氏の挨拶と本日のプログラムの紹介の後、早速、公開レッスンが始まりました。最初にレッスンを受けたのは、ピアノコース4年の水越晴菜さんで、曲はフォーレの「ノクターン第一番」変ホ短調Op.33-1でした。水越さんが一通り演奏した後、マンサール氏から、曲目の解説をはじめ、リズムの取り方や弾き方など、具体的かつ実践的なレッスンが行われました。通訳は、パリエコール・ノルマル教授で本学の客員教授である中沖玲子氏が務めました。

続いてレッスンを受けたのは、ピアノコース4年の碓大知さんで、曲はドビュッシーの前奏曲集第一巻第10番より「沈める寺」でした。この曲は、フランスの古い言い伝えエースの伝説が背景にあり、響き渡る大聖堂の鐘の音と祈りの声、海から浮かび上がりその姿を見せる美しい教会、そして再び海の中に蔽かに姿を消し静寂が戻る…という情景が立体的に目に浮かぶような幻想的な曲で、変化していく和音が幾重にも幾重にも重なって共鳴しています。碓さんがピアノを弾く傍で、楽譜の



マンサール氏より演奏指導を受ける碓大知さん

箇所を指示しながら熱心に指導するマンサール氏の姿が印象的でした。

第二部は、本学とパリエコール・ノルマル音楽院との交流作品演奏会で、最初の曲は、本学教授田中範康氏の作曲したフルートとピアノのための「アリア」で、フルートを磯貝俊幸氏が、ピアノを本学教授山田敏裕氏が演奏しました。磯貝俊幸氏は本学の卒業生で、現在は金城学院大学音楽芸術学科の准教授です。

2曲目は、ジャンルイ・マンサール氏作曲の歌とピアノのための「4つのメロディー」より第四曲「夜が抱く夢」で、ソプラノを本学教授松波千津子氏がピアノを山田敏裕氏が演奏しました。本曲の歌詞対訳は本学の西村和泉講師でした。

最後の曲は、堀田秀雄氏が作曲したフルート・オーボエとピアノのための音楽「冥」で、フルートを磯貝俊幸氏、オーボエを本学弦管打コース4年生の福田真規さん、ピアノは本学助手の佐藤なつみさんが演奏しました。それぞれの演奏が修了した後で、会場内では作曲者が紹介され、来場者から盛大な拍手が送られました。



ソプラノ 松波千津子氏と
山田敏裕氏 (Pf)



左から佐藤なつみさん(Pf)、
磯貝俊幸氏(Fl)、福田真規さん(Obe)

美術学部の専門選択科目 「書道アート(横山豊蘭講師)」で、 『大書道体験』が行われました

2013年度美術学部の専門選択科目として「書道アート」が開講されています。本講座の講師は横山豊蘭氏で、2回目の授業となった4月17日(水)に、大きな文字を書く楽しさを体験する「大書道体験」が西キャンパス体育館で行われました。

横山豊蘭氏は本学美術学部絵画科洋画2コースの卒業生で、1994年、大学在学中に書道パフォーマンスを開始。97年アートコンペティション「アーバナー#6」(グランプリ受賞)全国で作品展示、パフォーマンスを披露。テレビ、雑誌など様々なメディアで取り上げられ、近年の書道ブームの先駆けとなっています。98年以降、アメリカ、日本、中国など国内外で行われた数多くの展覧会やグループ展に出演・出展。また、毎日新聞社主催「富士山学生書道展」(2006年～連続、最優秀団体賞受賞)ほか多くの団体賞を受賞されています。その他、CMキャンペーン、漫画題字、ミュージックアルバム・CDなど多くの題字作品を手がけています。

この授業は、大書によって、原初的な「書く」喜び、楽しさを身体全体で体験することで、身体全体を使って文字を書く、すなわち線を引くことが重要で、大書を通じて今の自分を表現することを目的としています。授業は2限(10:40-12:10)と5限(16:30-18:00)の2回行われ、合計160名ほどの学生が受講しました。

5人から10人のグループに分かれて集合し、講師から説明を受けた後、さっそく大書体験に取り組みました。体育館の床には学生用(1400×1800)と講師の手本用(学生のものよりやや小さい)2枚の大きな半紙が何組もセットされていて、その周りを取り囲んでスタンバイしました。学生たちはあらかじめ自分の書きたい文字(1文字だけ)を決めていて、講師にその文字を伝え、まず講師が大書の手本を朱書きします。学生はその様子をよく観察し、手や身体の動きをイメージ化して捉えます。そして、今度は学生が墨で大書を描いていくというやり方で、次々に大書道体験が進行していきました。

横山豊蘭先生の手本書きが出来上がるごとに、そのブロックで拍手が起こり、初めてみる書道アートとそのパフォーマンスに学生たちは見入っていました。授業には、イギリスのブライトン大学から交換留学生として来ている学生達も参加していて、初めての大書道体験に興奮冷めやらぬ様子でした。この授業で先生の書かれた朱書きの手本書は、受講生全員に進呈されました。



手本書を見ながら大書に挑戦する学生



朱書きの手本書を制作する横山先生

Blank' Newで、名古屋芸大デザイン学部チームが優勝しました

今年で8回目になるBlank' Newは名古屋の学生のためのファッションショーで、5月5日、ZEP NAGOYAで行われました。学生グループが15分のファッションショーの衣装、ヘア&メイク、モデル、音楽、映像、舞台構成を手がけ、13チームが賞を目指して競い合います。名古屋芸大デザイン学部など混合チーム「」(クウハク)のメンバーは21名。ショーのテーマを環境音とし、服の半分を自然音、もう半分を人工音に分けて作成しました。デザイン学部各コースの専門を生かして、映像、音、テキスタイル、メタルアクセサリーを構成したすばらしいものでした。

「」(クウハク) メンバー

- メタルアクセサリー制作/メタル&ジュエリーコース3年 森 美月、木村文香
- 布制作/テキスタイルデザインコース3年 寺島佑紀、田畑知著、小島日和、2年 熊井優香
- モデル/メディアコミュニケーションコース3年 今井龍太郎
- 音楽/メディアデザインコース3年 山口真奈
- 映像/メディアデザインコース3年 岡崎友恵
- 縫製/名古屋芸大の学生モデル
- ヘア&メイク/中部美容学校、名古屋美容学校、中京大学の学生



NEXCO中日本と本学が産学協同研究を実施しています！！

NEXCO中日本と、名古屋芸術大学 デザイン学部 メディアコミュニケーションデザインコースが「高速道路休憩施設におけるコミュニケーションメディアの提案」をテーマに、産学協同研究を実施しました。

【男めしフェア】◆2013年3月1日(金)～3月31日(日)

今回の「男めし」フェアは、学生達が提案したプロジェクトで、高速道路を日常的に利用される“働く男たち”へのサービスとして「男めし」をコンセプトに、ガッツリ系の食事メニューを紹介するものです。本学学生はイメージキャラクターのデザイン、パンフレットの制作(文字、地図のデザイン)まで、トータルに担当しました。作成したパンフレットはA4変形マップ付き全8ページで、5万部印刷されNEXCO中日本管轄の47エリアに配置されています。ポスターなどにもメディアコミュニケーションデザインコースの学生が制作した、イラストや文字などが使われました。



各サービスエリアの写真

産学協同プロジェクト 名古屋芸術大学×ラッキー工業 「新しい世代へのベビー用品のデザインおよび機能の開発」が行われ、 その様子がAXISに掲載されました

名古屋芸術大学デザイン学部とラッキー工業(岐阜県のベビー関連用品のメーカー)の産学協同プロジェクト「新しい世代へのベビー用品のデザインおよび機能の開発」が行われました。

ベビー用品の市場では、近年海外ブランドの台頭がめざましく、海外製の多機能抱っこ具が市場の半分近くを占めています。こうした現状の中、ラッキー工業の樋口社長から「機能性に加えて、革新的なアイデアが必要だ。これから子を持つ若い世代のアイデアを借りて魅力あるものづくりをしたい」という提案が本学に持ち込まれ、産学協同プロジェクトがスタートしました。テーマは、「乳幼児を抱っこ・おんぶする『ベビーキャリア』」の提案となりました。

このプロジェクトに参加したのは、和田教授と片岡教授が指導するインダストリアルデザインコースの3・4年生40名で、2012年5月にスタート。まず、ラッキー工業からオリエンテーションを受けた学生たちは、同社の製品を試用して使い勝手などを体感しました。その後、4～5人のチームに分かれてベビーキャリアに関するリサーチを進めました。ベビー用品量販店の調査やヒヤリングなどを基に、現状の実態や問題点、課題などを洗い出して発表し、これらの情報をベースに個別に作品を制作していききました。制作段階では、とにかくたくさん作品を作って試すこと、また、赤ちゃんのモデルを使って、重さや肌の当たる部分を

体感として積み重ねることで、ステップアップしていきました。

その後、中間発表のプレゼンテーションを終え、7月の最終発表で最優秀賞を受賞したのは、佐々和希さんの「ボレリング」で、ドレスアップした保護者に似合うスリングです。結婚式など特別な空間でもボレロやショールのような見え方でドレス姿にも馴染む、そうした場でも使えるベビーキャリアです。樋口社長も絶賛。商品化が決定しました。

もう一つ、商品化が予定されているのは、樋口友香さんの「ラベル」で、若い女性のファッションアイテムであるつけ襟を乳幼児の口や首が触れる部分に被せる抱っこひもです。抱っこひも＝育児＝大変そうというイメージを払拭したいと考えた作品だそうです。

今回の産学協同プロジェクトについては、和/英のバイリンガル編集で有名なデザイン情報誌AXIS(アクセス162号3月発売)で取り上げられ、詳しく紹介されています。



左「ボレリング」(佐々和希さん)
右「ラベル」(樋口友香さん)
AXIS 162号より

人間発達学部の学生たちが 「ものづくり親子の会」のイベントに参加しました！

6月23日(日)7:30～16:00、人間発達学部のクラブ「自然とくらしを楽しむ会」の学生10名が下記のイベントに参加してきました。

トヨタ自工高岡工場EX会(エキスパートの会)の「ものづくり親子の会」で、自然物に親しむものづくりとして、①小麦粉粘土、②野菜スタンプ、③テープゴマ、④ドングリ・松ぼっくり・豆の色々などで縁取りしたフォトフレームづくりなどをしました。多くの親子が自然物に触れる楽しさを改めて感じてくれたように思います。トヨタの職員の方からも多くを学ばせ

てもらいました。自動車作りはオートメーションに頼ってばかりでは行き詰まる、瑞々しい感性が大切であること。職場人としては、個人的に仕事ができるだけではだめで、仲間への思いやり、皆で伸びていけるような援助のできる人間でなければ、信頼される人間になることができないなど教えていただきました。又、忙しい中参加してくれた4年生の前部長からは、自分たちの取り組みについて、準備、実践態度など、温かくも厳しいアドバイスを受け、先輩のすごさ、有り難さも感じ、有意義な実践体験となった一日でした。



テープゴマ：20分挑戦したら
まわせるようになったよ！



フォトフレームづくり：いろいろなドングリ、
松ぼっくり、まめ、たねがあるんだね。



小麦粉粘土：小麦粉に自分で水をまぜて
粘土にしたよ。



野菜スタンプ：野菜っていろいろな
形しているね。

平成25年度名古屋市「商店街連携支援事業」に、名古屋芸術大学人間発達学部 「街なかで自然とくらしを楽しむためのワークショップ」が採択されました!!

2013年度名古屋市「商店街連携支援事業」に、名古屋芸術大学人間発達学部「街なかで自然とくらしを楽しむ会」と名古屋市中区栄町商店街振興組合の連携事業「街なかで、自然とくらしを楽しむためのワークショップ」が採択されました。こちらは、平成24年度に以下の内容が採択され、その継続として実施されるものです。

【平成24年度 名古屋市「商店街連携支援事業」の内容】

栄町商店街は、地上と地下の高層に集積する超広域型の日本有数の商業スペースです。だからこそ、ヨーロッパの都市にひけをとらぬ芸術的な格調高い街づくりを目指して努力を続けています。2012年度、9月から3月まで、毎月第1土曜日13:30～15:00に実施。①13:30～14:30「当月の自然とくらしについての講話」②14:30～17:00／ワークショップ。10～12月は栄町の街路灯64基に飾り付ける自然物で作ったリースづくりを実施。1～3月は栄町の歴史、自然、お店のMAPづくりを行いました。3月末「栄町ほっこりMAP」7500枚を完成。店舗や名古屋都市センターなどに設置、栄町の紹介を企図しました。



栄町ほっこりマップ

【平成25年度 名古屋市「商店街連携支援事業」の内容】

MAPを作る中で、江戸時代から形成され、今日に至る美しい栄町の歴史を学び、感じ取ることができました。建造物、大木、老舗など市民にもっと知ってもらい、親しんでもらいたいと考えています。そのため、MAPを片手に散策し、絵にとどめたい風景の写生会・写真撮影会を企画したい。ただし街なかでの交通安全を考え、参加者は高校生以上とします。2012年度のMAPづくりの事業にも名芸大の美術学部の職員が参加していたので、2013年度は「街なかで自然とくらしを楽しむ会」に加え、美術・デザイン学部の教職員・学生の協力も得ます。初心者も参加できるよう、絵と写真の基本についての講座・ワークショップも行い、作品の合評会も行い、優秀作品は街なかで展示します。全入選作品を一か所に一定期間の展示したのち、関係のある店舗や建物に各作品の展示を依頼します。

■活動予定 毎月第1土曜日 pm13:30～14:30

「月々の自然とくらし」の講話

講師／近藤宏 pm14:40～16:00 ワークショップ

講師／福岡龍太 他

場所／①9月14日(土) SMBCパーク 栄

MAP紹介および栄町の歴史についての紹介。MAPを片手に栄町を散策。撮影、描きたい対象探し。

②9月21日(土) SMBCパーク 栄

スケッチ、水彩画、油彩画の基本、写真撮影の基本についての講義とワークショップ

③10月5日(土) 朝日神社集合 写生会、写真撮影会に出発

④11月2日(土) 栄町商店街振興組合事務局会議室

絵、写真の紹介、合評会。参加者の投票及び専門家の審査による入賞作品の決定。(入賞は水彩画部門、油彩画部門、一眼レフ部門、デジカメ部門に分けて決定する。)

参加費／無料

※全回参加が望ましいですが、可能な日での参加や当日参加も可。参加をご希望の方は、下記の「参加申し込み」よりFAXにて、お申し込みください。

■アクセス

○講話およびワークショップ

日時：①9/14(土)、②9/21(土)、13:30～16:00

場所：三井住友銀行SMBCパーク 栄

名古屋市中区錦3-25-20 広小路久屋西交差点北西角
三井住友銀行名古屋栄支店 地下鉄栄駅⑨出口すぐ

○講話およびワークショップ

日時：③10/5(土)、13:30～16:00

場所：朝日神社集合。その後栄町の写生会、撮影会を実施予定。

名古屋市中区錦3-22-21 丸栄斜向かい

地下鉄栄駅⑩出口から西へ250m 5分

○合評会

日時：④11/2(土)、13:30～16:00

場所：栄町商店街振興組合事務局会議室 丸栄前 栄町ビル5階

■参加申し込み、問い合わせ

名古屋芸術大学 人間発達学部 野原由利子 宛に下記の内容をご記入のうえ、FAXをお送りください。

・郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号(携帯電話可)

・参加可能日・お問い合わせ内容

FAX番号：0568-24-0317

みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

CONCERT GUIDE

2013年度 名古屋芸術大学音楽学部 演奏会案内

8 August

第15回ピアノサマーコンサート

日 時/2013年8月8日(木) 17:30開演
会 場/名古屋芸術大学音楽学部3号館ホール
入場料/無料(全自由席)

NUA Strings 第6回定期演奏会

日 時/2013年8月28日(水) 18:45開演
会 場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
入場料/1,000円(当日1,500円)全自由席

9 September

ウィンドオーケストラ第32回定期演奏会

指 揮/ヤン・ヴァン デル ロースト
竹内 雅一
日 時/2013年9月24日(火) 18:30開演
会 場/愛知県芸術劇場コンサートホール
入場料/1,000円(全自由席)

10 October

あいちトリエンナーレ2013 祝祭ウィーク ショービジネスに乾杯!

日 時/2013年10月3日(木) 18:00開演予定
会 場/愛知県芸術劇場大ホール
入場料/一般2,000円 高校生以下1,500円
全自由席

研究生特別演奏会

日 時/2013年10月10日(木) 18:00開演予定
会 場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
入場料/無料(全自由席)

オーケストラ第31回定期演奏会

指 揮/古谷 誠一
日 時/2013年10月24日(木) 18:45開演予定
会 場/愛知県芸術劇場コンサートホール
入場料/1,000円(全自由席)

11 November

第21回ピアノの夕べ

日 時/2013年11月14日(木) 17:30開演予定
会 場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
入場料/無料(全自由席)

音楽学部第36回定期演奏会

日 時/2013年11月21日(木) 18:00開演予定
会 場/三井住友海上 しらかわホール
入場料/無料(全自由席)

12 December

「Earth Echo」電子オルガンコース 第16回定期演奏会

日 時/2013年12月10日(火) 18:30開演予定
会 場/熱田文化小劇場
入場料/無料(全自由席)

第32回室内楽の夕べ 大編成の部

日 時/2013年12月17日(火) 18:00開演予定
会 場/名古屋芸術大学音楽学部3号館ホール
入場料/無料(全自由席)

第32回室内楽の夕べ 小編成の部

日 時/2013年12月19日(木) 18:00開演予定
会 場/熱田文化小劇場
入場料/無料(全自由席)

2 February

研究生修了演奏会

日 時/2014年2月4日(火) 18:00開演予定
会 場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
入場料/無料(全自由席)

第12回 歌曲の夕べ

日 時/2014年2月8日(土) 18:00開演予定
会 場/HITOMI HALL
入場料/無料(全自由席)

ピアノのしらべ 第18回 春のコンサート

日 時/2014年2月13日(木) 17:30開演予定
会 場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
入場料/無料(全自由席)

大学院音楽研究科特別演奏会

日 時/2014年2月20日(木) 開演時間未定
会 場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
入場料/無料(全自由席)

アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン 第15回定期演奏会

指 揮/ヤン・ヴァン デル ロースト
小野川 昭博
日 時/2014年2月24日(月) 18:15開演予定
会 場/江南市民文化会館大ホール
入場料/1,000円(全自由席)

Kaleidoscope2014

日 時/2014年2月27日(木) 開演時間未定
会 場/愛知県芸術劇場小ホール
入場料/500円(全自由席)

第41回卒業演奏会

日 時/2014年2月28日(金) 17:00開演予定
会 場/三井住友海上 しらかわホール
入場料/無料(全自由席)

3 March

第16回大学院音楽研究科修了演奏会

日 時/2014年3月6日(木) 開演時間未定
会 場/三井住友海上 しらかわホール
入場料/無料(全自由席)

ミュージカル公演

日 時/2014年3月7日(金) 開演時間未定
会 場/アートピアホール
入場料/1,000円(全自由席)

オペラ公演

日 時/2014年3月8日(土) 18:30開演予定
会 場/三井住友海上 しらかわホール
入場料/無料(全自由席)

※予定につき変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。入場無料の公演は、整理券を発行します。

【お問い合わせ】名古屋芸術大学音楽学部演奏課

■ 〒481-8503 愛知県北名古屋市熊之庄古井281

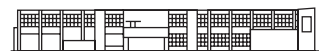
■ Tel 0568-24-5141

アート&デザインセンター 2013/2014 展覧会スケジュール

2013	
4月3日(水)~4月17日(水)	2012年度デザイン学部レビュー選抜展
4月19日(金)~4月24日(水)	齊木俊秀 彩織部の軌跡 展
4月19日(金)~4月24日(水)	sabbat
4月26日(金)~5月8日(水)	6次元 ~パラレルワールド~
4月26日(金)~5月8日(水)	写真部「春展示」
5月10日(金)~5月15日(水)	ラテルナ・マギカ(幻灯):フェロー諸島から
5月17日(金)~5月22日(水)	テレピンペトロール
5月17日(金)~5月22日(水)	タイトル未定(洋画2コース2年)
5月17日(金)~5月29日(水)	THE MEDAL COMPLEX 2
5月24日(金)~5月29日(水)	peace nine 2013
5月24日(金)~5月29日(水)	Big Crunch
5月31日(金)~6月5日(水)	創作折紙作品展
5月31日(金)~6月5日(水)	Yoooooooo!!!
5月31日(金)~6月5日(水)	パンVS米
6月7日(金)~6月12日(水)	5組展
6月14日(金)~6月19日(水)	教員展
6月21日(金)~6月26日(水)	名古屋芸術大学・OG展
6月21日(金)~6月26日(水)	メディアデザインコース“展覧会デザイン”展
6月28日(金)~7月3日(水)	スペースデザインコース展
6月28日(金)~7月3日(水)	第4回神戸コレクション展
6月28日(金)~7月3日(水)	コミュニケーションアート&デザイン展(院)
7月5日(金)~7月10日(水)	四年生はたいへんだ
7月12日(金)~7月17日(水)	2013年度前期留学生作品展
7月19日(金)~7月24日(水)	洋画1コース3年 展
7月26日(金)~8月7日(水)	素材展
8月10日(土)~9月18日(水)	2013年度企画展 桑山忠明 Titanium-Art as Space,Space as Art
9月20日(金)~9月25日(水)	“解き放たれた約束” 吉岡弘昭全版画1967~2013出版記念展
9月27日(金)~10月2日(水)	名古屋芸術大学「彫刻コース展」
9月27日(金)~10月2日(水)	洋画2コース3・4年選抜展「ソナチネ」
10月4日(金)~10月9日(水)	『遭遇するドローイング:ハノーファー&名古屋2013』展
10月11日(金)~10月16日(水)	ア”ー”ッ!ラジオ&大学院同時代表現研究展
10月18日(金)~10月23日(水)	名古屋芸術大学大学院洋画制作2013
10月25日(金)~11月1日(金)	2013年度企画展 デザイン学部客員教授展
11月5日(火)~11月13日(水)	2013年度企画展 phono/graph(フォノグラフ)展
11月15日(金)~11月20日(水)	MCDデパートメント
11月22日(金)~11月27日(水)	『幼稚園児たちのゲイジツ』展
11月22日(金)~11月27日(水)	『Hand Hospeace:医療と美術』展
11月29日(金)~12月4日(水)	洋画2コース選抜展
11月29日(金)~12月4日(水)	内面的刺繍表現
12月6日(金)~12月11日(水)	デザイン学部MMDコース展
12月13日(金)~12月18日(水)	こどもの空間 絵本と椅子
12月13日(金)~12月18日(水)	2013年度 後期交換留学生作品展
12月20日(金)~12月25日(水)	日本画3年作品展
12月20日(金)~12月25日(水)	洋画2コース3・4年選抜展「ビルドゥング」
12月26日(木)~1月27日(水)	卒業制作展 学内審査(ID/SD) 1
2014	
1月10日(金)~1月15日(水)	ガラス・陶芸コース2~3年生合同展覧会
1月17日(金)~1月22日(水)	美術学部コース展
1月23日(木)~1月24日(金)	卒業制作展 学内審査(ID/SD) 2
1月28日(火)~1月29日(水)	卒業制作展 学内審査(MCD)
1月30日(木)~1月31日(金)	卒業制作展 学内審査(MMD)
2月1日(土)~2月4日(火)	2012年度 大学院2年 修了審査
2月7日(金)~2月8日(土)	版画/アートクリエイター卒業制作最終審査
2月12日(水)~2月14日(金)	2012年度 大学院1年 研究報告会
未 定	卒業制作展
未 定	デザイン学部 レビュー選抜展

*都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

Art & Design Center



名古屋芸術大学アート&デザインセンター 〒481-8535 北名古屋市長重西沼65番地 tel.0568-24-0325 tel/fax.0568-24-2897

後援会学費貸付事業

日本経済も長く続いた不況をようやく抜け出すような気配が感じられますが、まだまだ本当の回復とはいかない状況が続いています。このような状況の中、保護者が亡くなられたり、病気や失業されたりしたご家族は大変だと思います。こういったことに対して少しでも助けになればと始められたのが、この学費貸付事業です。後援会の皆様の会費を基金にしているため、貸付を受けるにはいくつかの条件がありますが、本規程をお読みいただき学費貸付事業を活用していただけたらと思います。申込み受付は各キャンパス学生支援課となっています。気楽に相談してみてください。（※2011年度より内規にて貸付対象者は最高学年在学者としています。）

名古屋芸術大学後援会学費資金等の貸付規程

（目的）

第1条 名古屋芸術大学後援会（以下「後援会」という。）が行う学生の福利厚生事業の一環として、家計急変等により学費の納入が困難な学生に対し、後援会が学費を貸し付けることにより修学を援助することを目的とする。

（定義）

第2条 この規程により学費の貸付を受ける者を、名古屋芸術大学後援会学費貸与生（以下「貸与生」という。）と称する。貸付する学費を名古屋芸術大学後援会貸付金とする。

（資金）

第3条 学費貸付金は次の資金をもってこれにあてる。

- (1)後援会学費貸付口座預金
- (2)この規程に基づく返還金
- (3)寄付金・その他の収入

（貸付額）

第4条 該当学年の学生納付金半期分以内とする。

- 2 貸付金は無利息とする。
- 3 未返済金がある者に対しては、貸し増しは行わない。

（貸付方法）

第5条 学費貸付は、大学授業料口座への振込みによって行う。

（審議）

第6条 貸与生及び貸付額の決定に関しては、学生部長が大学の全学教務学生委員会の審議を経て、後援会会長に推薦する。

（貸与生の決定）

第7条 貸与生の決定は、後援会会長が行なう。

（貸与生の選考基準）

第8条 貸与生の選考基準は、以下に基づいて選考する。

- (1)1年以上継続した本会会員の子弟であること。
- (2)家計急変等のため本学に修学することが、特に困難であること。
- (3)応募者の属する世帯の1年間の総所得金額が独立行政法人日本学生支援機構の収入基準以下であること。
- (4)修学に十分耐うるものと認められること。

（申請手続）

第9条 学費貸付を希望するものは、次に掲げる書類を後援会会長に提出しなければならない。

なお、手続は学生支援課を窓口とする。

- (1)後援会貸付金借用願
- (2)貸付金返済計画書
- (3)学費貸付希望者の所属する学科長の推薦書
- (4)学費貸付希望者の属する世帯の1年間の総所得金額を証明する書類。

（借用手続・借用証書）

第10条 学費貸付決定者は、次に掲げる書類を後援会会長に提出しなければならない。

- (1)借用証書（借用願と同じ保証人および連帯保証人の連署を要する）
- (2)貸付金返済計画書に基づく同意書
- (3)銀行口座振替依頼書（自動送金サービス用）（学籍を離れる時に提出するものとする）

（返還及期間）

第11条 貸付金は、学籍を離れてから3年以内で返還しなければならない。ただし、借用願出の際に虚偽の記載があった時は、直ちに返済するものとする。

- 2 返還方法は、一括返済または元金均等割とする。
- 3 貸付金の返還は、いつでも繰り上げて返還することができる。
- 4 返還は、学生支援課を窓口とする。

（返還猶予）

第12条 貸与生が傷病・その他やむを得ない事由によって返還猶予を願い出たときは、相当と認める期間猶予することができる。

（権限委任）

第13条 この規程に基づく学費貸付金の貸付手続き及び返済收受等の一切の権限を学長に委任するものとする。なお、この規程で疑義が生じたときは、会長と学長が協議のうえ決定する。

（改廃）

第14条 この規程の改廃は、後援会の総会の議を経て会長が行なう。

附則

- 1 この規程は昭和61年7月1日から適用する。
- 2 この規程は昭和63年4月1日から適用する。
- 3 この改正規程は平成16年4月1日から適用する。
- 4 この改正規程は2005年(平成17年)4月1日から適用する。

名古屋芸術大学後援会会則

- 第1条 本会は名古屋芸術大学後援会(以下「本会」という)と称し、事務局は名古屋芸術大学内におく。
- 第2条 本会は名古屋芸術大学の教育方針に基づき、大学諸活動の後援を目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- (1) 学生の課外活動への援助と学生の福利厚生に関する援助。
 - (2) 大学の正常な運営への寄与と、保護者の希望を大学に反映させる活動。
 - (3) その他本会の目的達成に必要と認める事業。
- 第4条 本会は名古屋芸術大学学生の保護者または、これに代わる者及び役員会が認めた本学卒業生の保護者をもって組織する。
- 第5条 本会に次の役員をおく。
- (1) 会長1名、副会長4名、監事1名、会計監査2名、書記2名、会計1名
- 第6条 本会の役員選出は次の方法による。
- (1) 役員は総会において会員の中から選出する。
 - (2) 書記、会計は役員の中から会長が委嘱する。
 - (3) 役員の任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。
- 第7条 本会役員の任務は次のとおりとする。
- (1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐し、会長が事故ある時はその代理をする。
 - (2) 監事は会務を監査する。
 - (3) 書記、会計は会長に委嘱された会務を行う。
- 第8条 本会の会議は総会、役員会とし、議長はその都度選出する。
- 第9条 定期総会は原則として年1回、5月に会長が招集する。必要と認めた場合は臨時総会を開くことができる。
- 第10条 総会は次の事項を審議・決定する。
- (1) 事業の実施、収支決算及び予算に関すること。
 - (2) 会則の改定、会の解散に関すること。
 - (3) 役員の選出、その他の役員が必要と認めた事項。
- 第11条 総会は出席会員で成立し、議事は出席会員及び出席者に委任した者の過半数をもって議決する。
- 第12条 役員会は出席役員で成立し、会長が招集、議事は出席役員の過半数で議決する。役員会は総会への提案と決定事項の実施、運営にあたる。
- 第13条 本会にその目的を達成するために次の委員会を置く。
- (1) 総務委員会
 - (2) 事業委員会
 - (3) 広報委員会
- 第14条 委員会に、委員長1名、副委員長2名および委員若干人を置く。
- 2 委員長は副会長が兼務し、副委員長及び委員は委員会の同意を得て会長が指名する。
- 第15条 本会に顧問をおくことができる。顧問は役員会の承認により、会長が委嘱し、会長の要請により各会議に参加し意見を延べる。
- 第16条 本会の経費は、会費及び寄付金をもってこれにあてる。会費は入学時16,000円、2年次以降年額10,000円とする。
- 第17条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日までとする。
- 第18条 本会則の運営に必要な事項は、役員会の議を経て会長が定める。
- 附則
- 1 本会則は昭和62年6月22日から実施する。
 - 2 本会則は昭和63年6月12日一部改正し実施する。
 - 3 本改正会則は平成10年5月31日から実施する。
 - 4 本改正会則は平成25年5月19日から実施する。

名古屋芸術大学後援会の弔意に関する内規

1. 学生が死亡したときは、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金1万円を給付する。
2. 保護者(父・母)が死亡したときも、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金5,000円を給付する。
3. 役員(2親等血族および1親等の姻族)が死亡した場合は、弔慰金として5,000円を給付する。
4. 弔慰金の給付については、事由の発生から1年以内に後援会事務局に申請されたものに限る。
5. この内規により処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会に事後報告する。

附則1. この内規は、慣例的に実施していたものを平成15年4月1日付けで明文化する。

附則2. この改正内規は、2006年6月1日より施行する。

名古屋芸術大学後援会顧問の委嘱に関する内規

1. 名古屋芸術大学の顧問は、原則として、役員会の承認に基づき、会長、副会長経験者の中から会長が委嘱する。
2. 顧問の任期は、会長経験者は15年、副会長経験者は10年とする。
3. この内規に基づき処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会の承認を得るものとする。

附則 この内規は2005年(平成17年)4月1日から適用する。

学校法人名古屋自由学院決算報告

平成24年度 消費収支計算書

(単位：千円 四捨五入)

科 目	23 年 度	24 年 度	前年度比較
消費収入の部			
学生生徒等納付金	3,916,966	3,739,586	△177,380
補助金	397,306	391,796	△5,510
その他	245,182	429,782	184,600
A 帰 属 収 入 計	4,559,454	4,561,164	1,710
基 本 金 組 入 額	△100,000	△113,756	△13,756
B 消 費 収 入 の 部 合 計	4,459,454	4,447,408	△12,046
消費支出の部			
人件費	3,661,163	2,882,635	△778,528
教育研究経費	1,428,533	1,376,934	△51,599
管理経費	398,101	455,493	57,392
その他	84,879	80,781	△4,098
C 消 費 支 出 の 部 合 計	5,572,676	4,795,843	△776,833
A - C 当年度帰属収支差額	△1,013,222	△234,679	778,543
B - C 当年度消費収支差額	△1,113,222	△348,435	764,787
基 本 金 取 崩 額	283,300	0	△283,300

消費収入の部は、学納金・補助金ともに前年度を下回りましたが、不動産の売却、雑収入（私立大学等退職金財団交付金）の増加等により、帰属収入合計は45億6116万円（前年度比171万円の増加）となりました。基本金組入額は1億1376万円、消費収入の部合計は44億4741万円となりました。

消費支出の部は、人件費28億8264万円、教育研究経費13億7693万円、管理経費4億5549万円、消費支出の部合計は47億9584万円となり、前年度比7億7683万円の減少となりました。なお、人件費の減少理由は、前年度に退職給与引当金特別組入が行われたことによるものです。

当年度帰属収支差額は2億3468万円の支出超過、当年度消費収支差額は3億4844万円の支出超過となりました。

平成24年度 貸借対照表

(単位：千円 四捨五入)

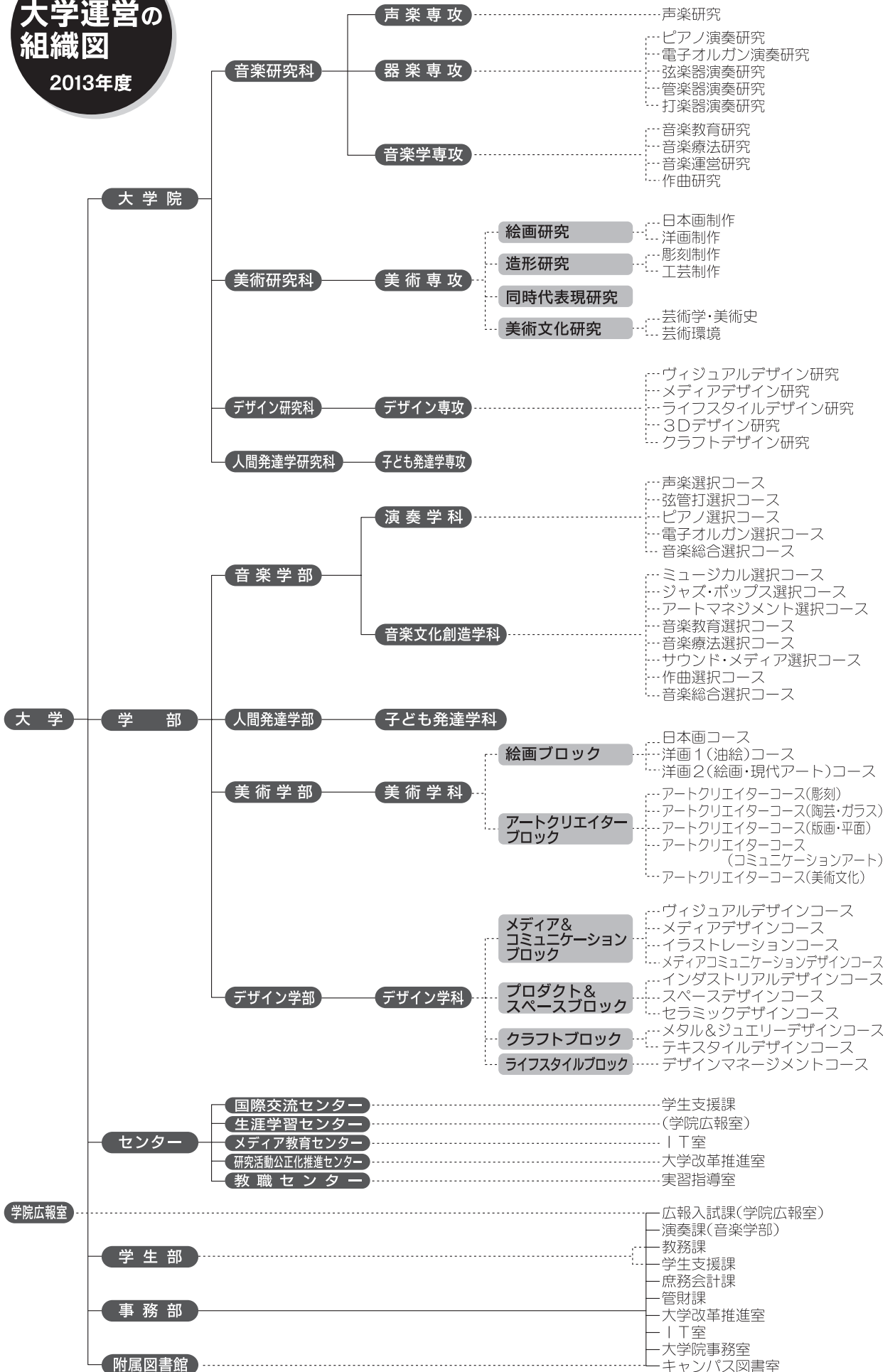
科 目	24年3月31日現在	25年3月31日現在	前年度比較
資産の部			
固定資産	16,452,643	16,745,497	292,854
流動資産	3,124,331	2,595,673	△528,658
資産の部合計	19,576,974	19,341,170	△235,804
負債・基本金・消費収支差額の部			
固定負債	1,383,864	1,355,421	△28,443
流動負債	958,974	986,292	27,318
負債の部合計	2,342,838	2,341,713	△1,125
基本金の部合計	20,430,098	20,543,854	113,756
消費収支差額の部合計	△3,195,962	△3,544,397	△348,435
負債・基本金・消費収支差額信合計	19,576,974	19,341,170	△235,804

資産の部合計は193億4117万円（前年度比2億3580万円減少）、負債の部合計は23億4171万円（前年度比113万円減少）、基本金の部合計は205億4385万円（前年度比1億1376万円増加）、消費収支差額は35億4440万円の支出超過となりました。

※詳細は、名古屋芸術大学ホームページをご覧ください。

大学運営の組織図

2013年度



「名古屋芸大グループ木祖セミナーハウス」をご利用ください

利用目的

名古屋芸大グループ木祖セミナーハウスは、本学院の学生、生徒及び園児並びに教職員等が共同生活において交流を深め、合宿研修、学外授業及び課外活動等を通じて教育の効果を高めるとともに、教職員等及びその関係者の福利厚生等に資することを目的としています。

利用者の範囲

- (1) 本学院の学生、生徒及び園児
- (2) 本学院の教職員(非常勤講師、非常勤職員及び退職者を含む)
- (3) 本学院の卒業(園)生
- (4) (1)～(3)に掲げる利用者の家族
- (5) (1)～(4)に掲げる利用者から紹介された者で、管理責任者が特に利用を認めた者

開設期間

9月の第2土・日曜日及び12月30日の宿泊から1月2日までを除く通年。
※ただし、本学院の都合により、臨時休業する場合があります。

施設利用料

施設利用料(1人1泊 ※食事料金を除く)は次のとおりです。

利用者の範囲	利用料(小学生以下)	その他
① 本学院の園児	500円	※④～⑥の利用者で、2歳以下は無料。
② 本学院の学生・生徒	1,000円	
③ 本学院の教職員	1,500円	※本学院の教職員を問わず、学生等の引率の場合は当該学生と同額。
④ 本学院の卒業(園)生	2,000円(1,000円)	
⑤ ①～④の家族	2,000円(1,000円)	※宿泊を伴わないセミナー室のみの利用 1日:8,000円 / 半日:5,000円
⑥ ①～⑤の紹介(紹介者と同伴利用する場合)	3,000円(1,500円)	
⑦ ①～⑤の紹介(紹介者と同伴利用しない場合)	5,000円(2,500円)	

※上記以外の利用については、お問い合わせください。

食事の予約と料金 ※希望者に対応

セミナーハウスで食事を希望する場合は、利用申込時に予約が必要です。料金は次のとおりです。チェックアウト時に管理人へ支払ってください。

料金(1人分)	夕食(小学生以下 750円)	朝食	昼食(2泊以上が対象)
	1,500円	500円	500円～1,000円※

※昼食の内容については、管理人にお尋ねください。上記料金の範囲で希望に応じます。

【バーベキュー(夕食)】 7月～9月までの限定。(1人分)料金1,800円(小学生以下1,500円)

※設備の関係上、施設利用人数が多い場合は希望に応じられない場合があります。

問い合わせ・申し込み先

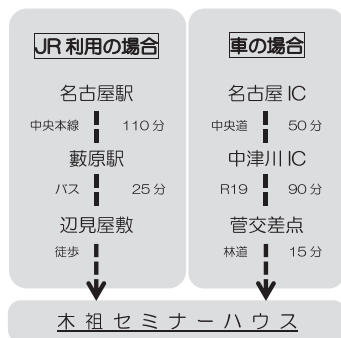
下記へ電話で予約をしてください。利用申込の詳細手続きについては、予約時にご案内します。

＜学校法人名古屋自由学院 法人事務局総務部総務課＞

場所:名古屋芸術大学東キャンパス12号館5階 TEL:0568-24-0311 FAX:0568-24-0314

交通アクセス

所在地:〒399-6203 長野県木曾郡木祖村小木曾4793 TEL & FAX:0264-36-2570



周辺の施設・観光地

- ・こだまの森
テニス、プール、
パターゴルフ、
多目的運動場、
バーベキューハウス、
巨大迷路、溪流釣り等
- ・やぶはら高原スキー場

編集後記

第55号後援会報が皆様方のご協力と大学事務局の方々のご協力により発行できましたことを心より感謝しております。

「光陰矢のごとし」のことわざのとおり、新年度もあっという間に半年が過ぎてしまいましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

本会報には、各学部におけるの活発な活動状況の報告、学生部からの報告等のほか、今年度の各学部の年間行事予定、就職セミナーの紹介など盛り沢山の内容をご紹介します。

また、本学の施設につきましては、5月の施設見学会でご案内のとおりですが、これらの素晴らしい施設を思う存分活用して、勉学に励んでいただき、社会に貢献できる技能を磨いていただきたいと思います。

先日の参院選で、ねじれ国会も解消されたため、政局のスムーズな運営と今後の景気回復により、就職状況も改善されることを願います。

広報委員長 富田知彦

- ◆発行 名古屋芸術大学後援会
〒481-8503
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
TEL.0568-24-0315 FAX.0568-24-0317
- ◆編集 名古屋芸術大学後援会 広報委員会
- ◆表紙デザイン
本学デザイン学科卒業生 武藤理恵子
- ◆封筒デザイン
本学デザイン学科卒業生 福見光洋
- ◆発行日 2013年(平成25年)9月30日

